

22年度歴史探訪東海道パート2

古歴部会木島

| 月日   |           | 頁     | 通し頁     |
|------|-----------|-------|---------|
| 4/1  | 47回 品川    | 1~6   | 114~119 |
| 5/6  | 48回 大森    | 7~12  | 120~125 |
| 6/3  | 49回 蒲田    | 13~17 | 126~130 |
| 7/1  | 50回 戸塚II  | 18~22 | 131~135 |
| 8/4  | 休み        |       |         |
| 9/2  | 51回 藤澤    | 23~27 | 136~140 |
| 10/7 | 52回 茅ヶ崎   | 28~33 | 141~146 |
| 11/4 | 53回 平塚III | 34~38 | 147~151 |
| 12/2 | 54回 大磯    | 39~43 | 152~156 |
| 1/3  | 休み        |       |         |
| 2/3  | 55回 二宮    | 44~48 | 157~161 |
| 3/3  | 56回 小田原   | 49~54 | 162~167 |
| 4/7  | 57回 箱根    | 55~58 | 168~171 |
| 5/12 | 58回 栢山    | 59~63 | 172~176 |

56

平成22年度「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪企画(案)作成平成21年4月古民家歴史部会員 原本  
 「I」4月1日(木) 東海道品川宿 (集合; JR品川駅) 中央口改札口10時厳守  
 47 行程; 品川駅→品川駅操業記念碑→問答河岸・土蔵相模→品川宿松→法善寺→本陣跡→品川神社→大山墓地・  
 東海寺・細川家墓地→荏原神社→品川橋→品川寺→海運寺→青物横丁駅。  
 昼食場所; 青物横丁駅前商店街「割烹竹惣」特注天ざる1600円。03-3471-5678

「II」5月6日(木) 旧東海道内川橋・磐井神社・鈴ヶ森遺跡、大経寺・なみだ橋・品川歴史館・大森貝塚遺跡庭園  
 48 行程; 大森海岸駅→(説明のみ旧東街道・内川橋)→磐井神社→鈴ヶ森刑場跡・大経寺→浜川橋→天祖諏訪神  
 社→大井の水神→鹿島神社→品川史跡館→大森貝塚跡公園→大森駅着。駅ビルストリッパ街自由昼食解散。  
 昼食場所; 大森駅ビル内「」円/一人予定。電話; 03- 。

「III」6月3日(木) 旧東海道・磐井神社・大森市場・梅屋敷・六郷の渡し場跡  
 49 行程; 京急「平和島駅」→旧東海道道・浅草海苔問屋街→内川橋→梅屋敷→・古川薬師→六郷神社→北野神社  
 →舟渡し碑→京急「六郷土手駅」  
 食事場所; 六郷土手駅付近「」円 TEL03- 。

「IV」7月1日(木) 戸塚宿から藤沢宿へ集合; JR戸塚駅橋上(他に地下改札有り間違わないで下さい) 改札口  
 50 行程; 戸塚駅発バス移動→バス停「西横浜国際病院前」→お軽勘平の碑→松並木と一里塚→大運寺→ウィトリッヒ  
 の森→龍長院→八坂大神→影取池跡→バス停「鉄砲宿」→大船駅又は藤沢駅。  
 昼食場所; 戸塚茅ヶ崎線(大鋸鉄砲宿)「並木茶屋」もやし定食有名630円。TEL0466-22-7176

「V」9月2日(木) 藤沢宿パート3 (集合; 小田急線「藤沢本町駅」改札口10時厳守)  
 51 行程; 小田急線「藤沢本町駅」→真源寺→上方見附跡→三津橋家行在所跡→おしやれ地蔵→養命寺→本願寺→柏  
 山稻荷神社→(参考; 羽鳥御霊神社→耕余塾跡→城神明社)→四ツ谷動・大山道標→一里塚→二つ稲荷→  
 (参考; 常光明真言塔・巡礼供養塔→伊勢屋の墓地→本立寺) バス移動「香取駅」→JR辻堂駅着。  
 食事場所; 辻堂駅付近にて昼食

「VI」10月7日(土) 茅ヶ崎宿・南湖富士・鶴峰八幡宮・旧相模川橋脚  
 52 (集合; IR東海道線「茅ヶ崎駅」改札口10時厳守)  
 行程; 茅ヶ崎駅→1里塚→円蔵寺→間の宿南湖・南湖茶屋→南湖左富士→弁慶塚→参道・鶴嶺八幡宮→旧相模川橋  
 脚→上国寺→信隆寺→バス移動バス停「今宿」(11/24, 54, 56, 12/24→茅ヶ崎駅。  
 食事場所; 茅ヶ崎駅南口ジョイパート1・2階「花はん」一汁三菜定食(魚と天ぷら半々予約)13701人。  
 電話; 0467-83-1031。

「VII」11月4日(木) 東海道「平塚宿」 (集合; JR東海道線「平塚」駅改札口10時)  
 53 行程; 平塚駅→馬入川渡船場跡→馬入川遭難者供養塔・真福寺内→丁髷塚→馬入一里塚→平塚八幡神社→晴雲寺→  
 江戸城井戸枠→江戸見附跡→脇本陣跡→高札場跡→本陣旧跡→西組問屋場跡→要法寺→平塚の塚→お初  
 の墓→春日神社→上方見附→教善寺→薬師院→東組問屋場跡→お菊塚→昼食場所。  
 昼食場所; 駅ビルラカ5階「いっさい」釜炊ごはん 1500円/1人。TEL; 0463-23-2895。

「VIII」12月2日(土) 大磯宿・旧東海道松並木・著名人別荘 (集合; JR大磯 駅改札口10時)  
 54 行程; 大磯駅→旧東海道(釜口古墳・化粧井戸)→虎御石→本陣、問屋場→地福寺→海水浴発祥の碑・松本順  
 →新島襄終焉の地→鳴立庵→藤村旧宅→昼食。  
 昼食場所; 鳥料理「杉本」 特注鳥料理ランチ 1、150/一人予定。

電話; 0463-61-0444

「IX」平成23年2月3日(木) 旧東海道間の宿二宮(梅沢の立場) (集合; JR東海道線「二宮駅」改札口10時厳守)  
 55 行程; 二宮駅・ガラスのうさぎ→徳富蘇峰記念館→藤巻寺→一里塚→松屋本陣跡・押切坂→川勾神社→知足寺→松  
 屋本陣跡→車坂碑→大山道標→バス移動「押切坂上駅」→二宮駅又は国府津着。別案; バス移動二宮駅→「押  
 切坂上駅」→二宮駅への逆コース。  
 食事場所; 「のんき亭」特選海鮮定食1500円・TEL0465-47-3458。

「X」3月3日(木) 小田原宿・小田原城歴史見聞 (集合; JR東海道線「小田原駅」改札口10時厳守)  
 56 行程; 小田原駅→外郭土塁→江戸見附・一里塚→北条稲荷→明治天皇宮の前行在所→明治天皇本町行在所→松原神  
 社→北村透谷碑→御感の藤→報徳二宮神社→小田原城→小田原駅。

食事場所；「ふじ丸小田原駅前店」海鮮定食1500円／1人。TEL；0465-23-4270。

駅前通り「金時」円／1人TEL；0465—。

次年度繰り越しますか？平成22年度「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪企画（案）

「I」4月7日（木）旧東海道箱根湯坂路

（集合；JR東海道線「小田原駅」改札口10時厳守）

行程A案；小田原バス移動→六地藏下車→湯坂道入口→鷹巣山（834m）→浅間山（804m）→湯坂城趾→箱根湯本→玉簾の滝→湯本（約8km）。

食事場所；湯元駅前通り。

行程B案；小田原バス移動→元箱根→箱根関所跡→杉並木→箱根神社周辺・バス移動→六地藏下車→湯坂道入口→飛龍の滝→畑宿寄木会館→畑宿本陣跡→バス移動→湯本駅（約8km）。

食事場所；湯本駅前通り。

「II」5月12日（木）二宮尊徳記念館・尊徳の里散策

（集合場所小田急線「栢山・かや駅」改札口10時厳守）

行程；栢山駅→坂口堤・松並木→村田道仙の家→二宮総本家屋敷跡→善栄寺→二宮尊徳の生家・尊徳記念館→捨苗栽培地跡→捨苗栽培地跡→油菜栽培地跡→昼食後自由解散所→栢山駅。

食事場所；「藪そば長八」手打ちそば定食1050円／1人。TEL；0465-38-0438。

#### 参考資料

神奈川県歴史散歩（上・下）

品川区立品川史跡館資料

しながわ百景のみち

東海道品川宿まち歩きマップ

横浜 特集 東海道三宿 in 横浜04秋号 横浜市広報課「横浜」

宿場マップ歩く・知る・発見する東海道；藤沢宿／茅ヶ崎宿／平塚宿／

大磯／二宮宿／小田原宿・箱根路／箱根宿／川崎宿

品川宿／藤沢宿／茅ヶ崎宿／平塚宿／大磯宿

神奈川ぶらりウォーキング横浜史蹟遍

東海道と藤沢宿

東海道五十三次藤沢宿史蹟ガイドブック

藤沢市文化財ハイキング・コース

大磯の別荘と史跡

尊徳記念館資料

ふるさと発見！！探訪にのみや

二宮の文化財

ファミリー・ハイキング 二宮史跡めぐり

中地区文化財めぐりふるさとの歴史・文化財発見～

にのみやまウォーキング・ジョギングガイド

湘南にのみや観光MAP

二宮金次郎史跡めぐり二宮尊徳の里

小田原の文化財

全国寺院名鑑

全国神社名鑑

歴史人物辞典

各種百科事典等

藤沢市、茅ヶ崎市、大磯、二宮、小田原、各市区町村、発行歴史書

高等学校教科・研究会社会科歴史分科会

品川区役所

品川区企画部広報公聴課

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

神奈川東海道ルネッサンス推進協議会

神奈川東海道ウォークガイドの会

神奈川図書館

藤沢教育委員会生涯学習課

可満くらやみ資料館

藤沢市教育委員会

大磯ガイドボランティア協会

小田原市教育委員会

編集・発行二宮教育委員会

二宮教育委員会

発行二宮町編集二宮広報編集委員会

中地区市町文化財保護連絡協議会

企画・発行二宮教育委員会

編集・発行；二宮町役場経済環境部経済課

東栢山道上自治会・小田原市尊徳記念館

小田原市教育委員会

以上

平成22年度「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪企画(案)作成平成21年5月古民家歴史部会員 原本  
 「I」4月1日(木) 東海道品川宿 「集合; JR品川駅」中央口改札口10時厳守  
 行程; 品川駅→品川駅操業記念碑→問答河岸・土蔵相模→品川宿松→法善寺→本陣跡→品川神社→大山墓地・  
 東海寺・細川家墓地→荏原神社→品川橋→品川寺→海運寺→青物横丁駅。  
 昼食場所; 青物横丁駅前商店街「割烹竹惣」予約の場合、特注天ざる1600円程。03-3471-5678

## 1・品川宿の概要

地名の由来は目黒川(江戸時代は大きく左に曲がっていた・宿場東側・洲、獺師町、漁師町)の古名を品川と言った事からと言われる。品川宿は宿駅伝馬制度が出来た(慶長6、1601)最初に付加され成立した。東京湾に面し、中世以来早くから六浦(金沢)と共に、物資の集散地として陸海交通の要衝として栄えてきた。日本橋から最初の宿で、2里(7.8k)川崎へ2里18町(9.8k)の位置にある。宿内町並は19町40間(2.1k)で、歩行(舁)新宿・北品川・南品川の3町で構成され、規模は江戸後期で人口6890人(男3272/女3618)家数1561軒、本陣1(北品川135坪)脇本陣2軒、問屋場1、旅籠93軒(東海道宿村大概帳)。

品川宿は海の景色、新鮮な海の幸があり、宿場町としてでなく、江戸の人々の行楽地として江戸初期から賑わった。桜・潮干狩・紅葉。又、寺・武家屋敷が近いという場所柄北の吉原に対し南国品川と称され多くの飯盛女(宿場遊女・旅籠に飯盛女置く事認められていた、500人認定に対し1500人とも)が賑わいを支えていた。

天保14年(1843)品川宿規模; 宿高987石089合・人口等上記参照。

## 2・品川駅操業記念碑

新橋―横浜間鉄道開通が最初とされているが、実は半年前の、明治5年5月7日新橋・品川間で仮営業されていた。この碑はそれを記念したもの。

## 3・御殿山(品川御殿跡・太田道灌屋敷跡・桜、楓名所)

面積11,550坪(品川町史)と言われ、江戸初期から1702年(元禄15)にかけて品川御殿があった(現北品川3丁目5番地付近)。焼失後、御殿は造らなかった。品川台場築造するため御殿山から大量の土を削り取った。土取の時、1854年(安政元)、板碑・五輪塔・宝篋印塔など中世の石造物と人骨が出土、法善寺で弔った。

## 4・問答河岸由来碑

品川の河岸で帰城する三代将軍徳川家光と沢庵和尚が次の問答をしたので、此の河岸を問答河岸と呼ぶ。  
 家光「海に近くてもトウ海寺とは如何」と問うと、沢庵はそくぎに「大軍を率いてもショウ軍というが如し」。

## 5・土蔵相模; 上級妓楼(ギ叻・遊郭) ナマコ土蔵がある相模・高杉晋作、伊藤博文など幕末志士密談。

## 6・品川宿の松・新宿お休み処・台場横町・黒門横町・善福寺、寄木神社(伊豆の長八こて絵)

## 7・御殿山下砲台(台場)跡(計画された11か所の台場の中で只一つ陸続きのもの。)

## 8・法善寺(浄土宗芝増上寺末・臨海山遍照寺・本尊阿弥陀如来・寺宝正観世音菩薩空海作2代将軍厄除霊像、宗祖法然尊像自作、六字名号宗祖筆円光大師畧畧縁起)

言營上人が1384(至徳元年)に開創。室町時代かそれ以前の制作とされる、法然上人坐像を収めた厨子(裏に元禄15年銘葵紋入)は5代将軍綱吉の母桂昌院が帰依し寄進したもの。品川台場築造の祭、御殿山からの土取の時、人骨、板碑、五輪塔、宝篋印塔が発掘され、当寺で供養した。板碑の多くは本堂脇の内庭のお堂に納められている。天保の飢饉で品川宿にも流民が溢れ、1837(天保8)春から翌年春までの1年間に品川宿内で891名が倒れた。この寺に500人余りを埋め埋葬し、塚の上に供養碑を置き正面左右に六地藏を安置した。流民叢(りり)塚碑は由来を記し天保塚の上に建てられた。

## 9・本陣跡(聖蹟公園・街道から9間、16.2m奥、建坪135坪・明治19年~昭和11年警視庁島川病院用地)

1868(明治元)明治天皇が初めて江戸城入りした時、この本陣は仮行在所(アザイヨ)となった事を記念して、聖蹟公園が造られた。

## 10・品川神社「シガツンジャ・江戸時代は品川稲荷・牛頭マズ天皇勧請・北の天王社、祭神天比理刀メ乃命(アマヒリノミコト)、宇賀之売命(ウガハメノミコト)、素盞鳴尊・基本4月15日、天王祭6月第1日曜日含金土日)

幕府は沢庵和尚を開山に招いて東海寺を建立する際、敷地内にあったこの神社を現在地に移転させた。神殿前の石造鳥居(上野東照宮の鳥居に次いで都内2番の古さ)と水盤は、東海寺造営奉行であった佐倉藩主堀田加賀守正盛が1648(慶安元)に寄進したもの(鳥居に寄進銘と宝暦12年=1762の修理銘刻)。石段横の富士山をかたどった富士塚は富士講の人々が造った人工の山である。

本殿右側から背後に回ると、自由民権運動指導者板垣退助の墓がある(右退助・左同妻)「板垣死すとも自由は死せず」佐藤栄作書。

品川神社古文書神社所蔵、古いものは天正11年(1583)に遡り現在に至る膨大な文書が伝来している。特に明治5年(1872)迄の文書415点は神社の由緒や境内図、神社と地域の人の関わり、幕府や明治政府との様々な応答、天王祭や太々神楽(ダダイガウ・伊勢神宮奉納・大道神楽)のことなど、品川地域の歴史の解明や、江戸時代から明治初年の神社史を知る上でも貴重な古文書である。

石造灯籠1対(都指定建造物);慶安元年(1648)に亀岡政重(石工)と後藤光利(装剣具彫刻工)が寄進、浅間神社の参道置かれている。

神輿1具;屋上に鳳凰、台上に円柱を方形に立て屋根を支え、胴の前部を唐戸、他の三面を牡丹唐草文毛彫の金銅板で覆い、三葉葵の文を四方に打ち出している。江戸時代前期制作と考えられる。

#### 11・日本ガラス工業発祥之地・東海寺大山墓地

官営品川硝子製造所跡、1873(明治6)日本最初のガラス工場(興業社)が設立されたが、経営不振から1876(明治9)官営となった。その後、官営工場払下げ方針によって、明治18年西村勝三らに払い下げられたが、7年後経営不振で解散(赤煉瓦建物一部愛知県明治村に移築保存)。

東海寺大山墓地;沢庵宗彭(りゅう・国史跡)石垣を巡らした中に3個の自然石を重ねただけもので、沢庵漬けの創始者・賀茂真淵(マブチ)、江戸中期の国学者(1697~1769・国史跡)・渋川春海(しゅんかい)、(貞享歴をつくった・1639~1715)・服部南郭(なんかく)、江戸中期儒学者(1683~1759)・井上勝(鉄道)等の墓。

#### 12・東海寺(臨済宗大徳寺派万松院・本尊釈迦如来坐像2尺余・脇侍普賢、文殊両菩薩14世紀院吉作・寺宝16羅漢像16軀伝慶作、仏舍利由良氏伝来、つり鐘区文)

開山沢庵和尚・開基は下総(千葉)佐倉藩主堀田正盛。1637(寛永14)沢庵和尚(1573~1645)が3大將軍徳川家光から、寺領500石、境内地4万7000坪(約15万500m<sup>2</sup>)を賜って、翌年開いた寺院。幕府の手厚い保護を受け、寛永寺・増上寺と並び称された巨刹であった。1871(明治4)寺域は官営地となり、諸堂塔は取り壊され、火災にあって旧観を失ってしまった。現在の東海寺は旧塔頭玄性院跡に建てられており、境内に1692(元禄5)に造られた梵鐘(都指定財)がある。かつての本堂は品川小学校の所にあった。都、品川区指定財に文書、什物(ジュウツ・日常器具)等多い。下総佐倉藩堀田家、丹波篠山藩主青山家の墓。

#### 13・細川家墓地「肥後熊本54万石外様(トザマ)大名・3m余五輪塔8基、大名墓地の典型」

#### 14・荏原神社(江戸期貴布禰社・祈雨神徳・南の天王社は期間品川神社と同じ、海中渡御、品川拍子・カップ祭)

品川宿鎮守南の天王様と呼ばれた。郡名を冠し明治8年荏原神社と改めた。高麗神(カマキリ)・天照大神・須佐之男尊(牛頭天皇)を勧請。1062(康平5)源頼義、義家父子が前9年の役の折り、武蔵の国総社6所宮(現府中市大國魂神社)と当社に祈願し、品川海岸で身を清めた。

#### 15・品川橋(南北宿境界、目黒川に架かる橋・漁師町・毎朝魚市・高札)

#### 16・品川寺(おんじ・品川の観音・真言宗醍醐寺派・海照山普門院・本尊水月観音、聖観音・梵鐘国指定重美)

大同年間(806~110)「空海が開山と言う。寺伝に寄れば空海が開いた後幾度か衰退したが、太田道灌や4大將軍徳川家綱の帰依を受けた。明治維新により大名の支援も途絶え堂宇の殆どを失ったが、大正以降宇堂を整備した。門外に露座で鎮座した地藏像(9尺)がある。この像は江戸の六地藏と呼ばれ、宝永5年(1708)江戸深川の地藏坊の正元が浄財を集め江戸の入口6ヶ所に造立した地藏の一つ。梵鐘(国指定重美)、洋行帰りの鐘として有名。1867(慶應3)パリ博覧会に出品されたが帰途行方不明になった。後ジュネーブにあることが判明し、昭和5年帰還された。1657(明暦3)造られた物で家康・秀忠・家光將軍3人の諡号(ゴウ・カキ・法号)、東照、伝通院・大徳院・大猷院を鑄造し、六観音の像を彫刻して取り付けられている。

#### 17・海雲寺(曹洞宗・竜吟山瑞林院・本尊十一面観音坐像春日作区文・千体荒神王、荒神祭・荒神様)

千体荒神は神仏混淆(コンコウ)の神で悪魔降伏の神、竈の神、防火の神。荒神祭は毎年3月、11月の27~28日、一日中護摩が焚かれ、屋台、露天、お釜おこし等が売られる。大絵馬奉納、古い物では1856(安政3)絵額・纏(マヒ)図額・千社額・文字額・区額等様々。文字額の中に昭和10年広沢虎造夫妻奉納した物あり。(中央左)

#### 18・鮫洲八幡神社「鮫洲・御林(おバヤシ)村・祭神は菅田別尊(おダワミコ)・気長足姫命(村ガタシメミコ)・伊弉諾尊(イザナミコ)・伊弉冉尊(イザナミ)・大井の漁師、漁川岸人々守神・鳥居、狛犬、他石造物江戸時代」

鮫洲由来、1251(建長3)此の地の沖に漂う大きな鯨の死体を浜に引き寄せ腹を裂くと、中から木像の観音様が出てきたので此を祀った。御林村由来、江戸前期此の地に幕府の雑木林がありそこを開発して村が創られた。浅草海苔主産地が品川で將軍家に献上する海苔は天王洲、鮫洲、水軍洲の海苔に限られ、それが浜川町(立会川両岸)の庄助と長右衛門に渡され両家で漉き浅草の海苔問屋永楽屋庄右衛門を経由江戸城に入った。

#### 「Ⅱ」5月6日(木)旧東海道内川橋・磐井神社・鈴ヶ森遺跡、大経寺・なみだ橋・品川歴史館・大森貝塚遺跡庭園

行程;大森海岸駅→(説明のみ旧東街道・内川橋)→磐井神社→鈴ヶ森刑場跡・大経寺→浜川橋→天祖諏訪神社→大井の水神→鹿島神社→品川史跡館→大森貝塚跡公園→大森駅着。駅ビルストリート自由昼食解散。

昼食場所;大森駅ビル「レストラン街」円。電話;03—。

品川宿の概要(東京日本橋から最初の宿場・2里)

地名の由来は目黒川(江戸時代は大きく左に曲がっていた・宿場東側・洲、獺師町、漁師町)の古名を品川と言った事からと言われる。品川宿は宿駅伝馬制度が出来た(慶長6年、1601)最初に付加され成立した。東京湾

に面し、中世以来早くから六浦（金沢）と共に、物資の集散地として陸海交通の要衝として栄えてきた。日本橋から最初の宿で、2里（7.8k）川崎へ2里18町（9.8k）の位置にある。宿内町並は19町40間（2.1k）で、歩行（舩）新宿・北品川・南品川の3町で構成され、規模は江戸後期で人口6890人（男3272/女3618）家数1561軒、本陣1（北品川135坪）脇本陣2軒、問屋場1、旅籠93軒（東海道宿村大概帳）。

品川宿は海の景色、新鮮な海の幸があり、宿場町としてでなく、江戸の人々の行楽地として江戸初期から賑わった（桜・潮干狩・紅葉）。又、寺・武家屋敷が近いという場所柄北の吉原に対し南国品川と称され多くの飯盛女（宿場遊女・旅籠に飯盛女置く事認められていた、500人認定に対し1500人とも）が賑わいを支えていた。

天保14年（1843）品川宿規模；宿高987石089合・人口等上記参照。

#### 1・旧東海道（三原通り=現美原）・内川橋・

昭和2年東海道は拡幅改修され、第1京浜国道が完成。その為往時の復員を比較的残している旧道は、この美原（三原地区；南原・中原・北原に由来）通りと六郷地区の一部だけとなった。歌舞伎※「浮世柄比翼稲妻」（舩ヨヅルヨヅル・4世鶴屋南北作世話物）で有名な、旅籠「駿河屋」のあった「駿河屋通り」は、内川橋から分かれる。※歌舞伎脚本の1。1823年（文政6）江戸市村座初演。不破名古屋（岐阜県不破郡関ヶ原）の鞘当てに幡随院長兵衛・白井権八・小柴をからめた筋。「鞘当」「鈴が森」と通称される場が有名。不破半左衛門と名古屋山三郎とが遊女葛城（カツギ）を争って鞘当てした事から、2人の男が1人の女を目当てに争う、恋の歌舞伎の一場面。

#### 2・磐井神社（伊弉、武蔵国八幡社総社別名鈴森八幡宮・祭神、応神天皇・大己貴命、材木ミコト・仲哀、ヲウイ天皇・神功、ジノウ皇后・中津姫大神・大田区文化財；磐井の古井戸、鈴石非公開、烏石非公開、江戸文人石碑群）

磐井神社は「延喜式」神名帳に載っている古い社である。「江戸名所絵図」によると、この社に鈴石があり、その石でたたくと鈴の音がするのが鈴ヶ森の地名の由来としている。注；「延喜式」（延喜格式・延喜式）法令集、905（延喜5）左大臣藤原時平らが勅命によって編集を開始、927年（延長5）完成40巻、諸官庁の実務手続き、儀式、政事の細訓、全国名神大社の祭神名列挙等記され朝廷を中心とした貴族政治の規範となった。

- 磐井の井戸；東海道往来の旅人に利用され、霊水又は、薬水と称され古来有名。この位置は元境内にあった。土地の人は、この井戸水を飲むと、心正しければ清水、心邪（ヨコシ）ならば塩水、と言う伝説を昔から伝える。
- 鈴石・烏石（ウシ・非公開）・江戸文人石碑群；鈴石は延暦年間（782～806年）に武蔵国国司であった石川氏が奉納した神功（ジノウ・仲哀天皇皇后）皇后ゆかりの石とされる。烏石は、烏の模様が浮き出た自然石で、江戸時代の書家、松下烏石（ウシ？～1779年・安永8）が寄進した。鈴石、烏石ともに屋内に保管。
- 江戸文人石碑群はこの烏石の由来を記した烏石碑をはじめ、松下烏石の門人等が建立寄進したもので、向かって右から次のように並んでいる。

狸筆塚文化6年（1809）・退筆塚天明6年（1786）・竹岡先生書学碑寛政8年（1796）・烏石碑元文6年（1741）、此らは、かつて弁天池周辺にあったが、神社境内整備に伴って現在地に移された。

#### 3・密蔵院（ミツゴン・真言宗智山派新義派大本山智積院末・八幡山祈念寺・本尊不動明王・寺宝お七地蔵、閻魔大王）

地蔵菩薩立像（俗称お七地蔵）は、八百屋お七は恋のために放火し、江戸の大火を引き起こしたため、鈴ヶ森刑場で処刑された。その霊を慰めるために、お七の住んでいた小石川の念仏講の人々が、三回忌にあたる貞享2年（1685）に建てたもの。庚申供養塔；寛文2年（1662）建立で、区内2番目に古いもので。手指を法界定印に結んだ阿彌陀像が半肉彫りされている。

#### 4・鈴ヶ森刑場（獄門場・南大井2-5）

日光道中の小塚原と共に江戸時代のお仕置場であった。記録（1695年・元禄8）によれば間口40間（72m）、奥行8間（14m）の広さがあったと言う。江戸時代の刑罰は厳しく、10両以上盗めば死刑、単なる死罪は伝馬町の獄で執行されたが、獄門の場合は獄内で打ち首の後、鈴ヶ森・小塚原に首を3日間さらした（さらし首）。磔・火刑（川ツ・火あぶり）の場合は、江戸市中引き回しのうえ、鈴ヶ森・小塚原で執行した。設置1651年（慶安4）廃止1870年（明治3）。

処刑第1号1651年（慶安4）丸橋忠弥（由井正雪と幕府転覆を謀った）・その他八百屋お七（恋人に会いたさに本郷放火）・天一坊（吉宗の御落胤を謀った）・平井権八（白井権八・遊興費に困って窃盗強盗）等が上げられる。

「南妙法蓮華経」と記した髭題目の碑は、1698年（元禄11）池上本門寺貫主の日凱が処刑された人々の供養のため書いて建てたものである。

#### 5・大経寺（ダキョジ・日蓮宗）

本寺にある台石は火あぶり・磔に用いられたものである。

#### 6・浜川橋（立会川・平成16年ボラ押し寄せる、出世魚・オボコ・スバシリ・イナ・ボラ・トド、とどのつまり）

刑場に向かう罪人が此処でこの世に別れを告げた事から「なみだ橋」とも言う。

#### 7・天祖諏訪神社、福祿寿（東海七福神めぐり・品川神社、大黒天・養願寺、布袋・一心寺、寿老人・荏原神社、恵比寿・品川寺、毘沙門天・磐井神社、弁財天）

#### 8・大井の水神（柳の清水・区指定史跡）



水神は大井村の農業用水の潤沢を祈って貞享2年（1686）に勧請され、水を確保する守護神として祀ったもの。湧き水は「柳の清水」名付けられ、日照りの時には村人が境内に集まり、雨乞いを祈願する信仰行事が明治頃まで続いたと言う。

9・品川用水（池上通り坂を下げきった処の十字路・大井6-11通り・鹿島神社境内に碑）

1667年（寛文7）村民の願いで玉川上水から分流した品川用水が西から東へ流れていた。昭和初年まで灌漑用水として利用されてきたが現在は暗渠となり、品川区と大田区境を示す道路となっている。

10・中世道路跡発見の地（山王1-6）

平成13年、ビル建設前の発掘調査の結果、長さ15.5m幅3.8mの道路跡が、池上通り（バス通り）に沿って発見された。室町時代土器が出土しており、中世道路跡と考えられ、路面下からは奈良時代の須恵器が出土、古代東海道の大井の駅に至る駅路を踏襲していたとも考えられ、中世の鎌倉街道に関係すると推定されるという。

11・品川史跡館（03-3777-0014）品川区教育委員会ホームページ・品川歴史観音ホームページ・月祝休・観覧料一般100円、小中学生50円、団体20名以上2割引特別展除く、70歳以上無料）

歴史を学ぶ学習センター・原始古代から現代までの品川区の歴史・特別展・企画展・図書資料室等。モース博士と大森貝塚ロビー（2階）。

12・鹿島神社「祭神武甕槌命・大井神・例祭10月第3日曜日・神紋流巴・芸能大井囃江戸中期より伝承・無文」

冷泉天皇安和2年(969)、南品川常行寺尊栄法師が茨城県鹿島郡鹿島神宮より、分霊を勧請当地に祀る・タブノキ品川区天園記念物指定・2月節分追儀式・2月11日建国記念祭。旧本殿奥宮として奉祀（文化8年1811改築時？現社殿昭和6年改築？）

13・大森貝塚遺跡公園；中央部に地層イメージした回廊と霧発生噴水・博士の誕生地アメリカ・トランド市と姉妹都市提携を結んで整備、昭和59年一部開園、平成5年一部改修、同7年大改修、同8年敷地広げて開園・大森貝塚碑、品川区国史跡、1929年=昭和4毎日新聞社社長本山彦一や石川千代松らによって建立・大田区大森貝塚碑；大田区国史跡、大田区の碑は翌年

1877年（明治10）アメリカから来日した動物学者モース（Morse）が、新橋・横浜間の車窓から発見・発掘した地点は何处かと問題にされてきたが、現在でも碑の周辺に縄文時代の貝殻が散らばっている品川区の方であると言う説が有力である。台地の縁辺（エッジ・周辺・廻り、一緒国）で、東側に低くなっている地域は、縄文時代は海であった。

14・円能寺・成田山大森不動尊（真言宗智山派・成田山・本尊不動明王・寺宝四大明王・東京百観音42札所）

天正5年（1577）祐仙が開山。昭和27年成田山新勝寺直末。

15・八景坂（山王2-3-5付近）

大森駅前のバス通りの坂道は、かつては相当な急坂で、あたかも葉草等を刻む葉研（ヤシ）の溝のようだったので、葉研坂とも言われた。坂道からの眺めは素晴らしく、八景景が選ばれたことから、名付けられたという。天祖神社境内にある句碑の裏面に、八景詩は刻まれている。なお神社脇の坂の壁面には馬込文士村を紹介した似顔絵などのレリーフがはめこまれている。

参考資料

善慶寺（日蓮宗）・新井宿義民六人衆（山王3-22）・新井宿村名主惣百姓等訴状写し都指定文化財非公開

善慶寺の境内に江戸時代の新井宿義民六人衆の墓がある。この辺りは旗本領で、領主木原義永の過酷な支配に苦しんだ農民を代表して、1677年（延宝5）新井宿村の村民6人が4代將軍家綱に直訴しようとした。しかし、密告者が出て6人は捕らえられ、斬首された。当時は罪人の墓をつくることは禁じられていたが村民は彼らの冥福を祈って密かに墓をつくった。墓石の表面に他人の名を、他の三面には6人の戒名を刻み、台石の四面に花立てと水入れを彫り、その間をくりぬいて、正面から水を注げば裏面にも回るよう工夫した。現在は当時の正面が裏面になっている。寺には義民六人衆の訴状控え（都有形）も保存されている。注；惣（莊園解体期の村民共同体結合）。

「Ⅲ」6月3日（木）旧東海道・磐井神社・大森市場・梅屋敷・六郷の渡し場跡

行程；京急「平和島駅」→旧東海道道・浅草海苔問屋街・内川橋→梅屋敷跡→古川薬師・安養寺→六郷神社→北野神社・舟渡し碑→京急「六郷土手駅」昼食場所特になし？

1・旧東海道・浅草海苔の始まり・浅草海苔問屋街

先祖が、貝類や海草を採って食用にした時期は、縄文前期東京湾岸に住み付いた頃からと推定される。浅草海苔の名前が生まれたのは慶長年間(1596~1614)と言われ、続いて品川海苔、葛西海苔の名も現れた。寛永20年(1643)以後は、浅草海苔の名称が全国的に広がり、有名になった。大量生産が可能になったのは、品川の漁業者が養殖方法を発明し、各地に伝わったからである。名の由来は、①品川大森で採れた海苔を浅草へ持って行って製造したから。②浅草川（現隅田川）で採れたから。③大森の野口五郎左衛門が浅草紙の作り方を工夫して海苔を作り、浅草海苔と名付けたから。海中にナラ・カシ等の粗朶（ツグ）ヒビを建てる養殖法発明、竹ヒビ活用、など使用から昭和

2年(1927)海苔養殖網(椰子の繊維使用)が発明された。その後、合成繊維網の出現で養殖法は大きく進歩した。しかし、品川、大森の海では始まった海苔養殖は、全国に広まり昭和60年代には、生産量は3万t。乾海苔は百億枚も生産されているが、大東京湾建設と言う目的の為に昭和37年を限りに、全面的に業権を放棄し、翌38年にその幕を閉じた。旧東海道美原通りには、現在も海苔問屋が多く、海苔流通網の重要な拠点の1つとなっている。

## 2・内川橋・旧東海道(美原通り)

昭和2年東海道は拡幅改修され、第1京浜国道が完成。その為往時の復員を比較的残している旧道は、この美原(三原地区;南原・中原・北原に由来)通りと六郷地区の一部だけとなった。歌舞伎「浮世塚比翼稲妻」(鶴屋南北作)で有名な、旅籠「駿河屋」のあった「駿河屋通り」は、内川橋から分かれる。

参考;海難供養塔(大森東1-27路傍);安政2年(1855)建立、神奈川に及ぶ魚介業者はじめ、町人・武士・役者等約300名刻、東京湾岸でも屈指の規模。

## 3・大森海苔のふるさと館(無料開館9時~17時)休館第3月曜日、年末年始・海苔生産用具・海苔造り体験企画) 20年4月6日OPEN。

## 4・梅屋敷跡(聖蹟蒲田梅屋敷公園)和中散売薬所跡

この付近は、古くから梅樹の栽培が盛んで、果実も品質も優秀であった。江戸の人々の嗜好品(香味や刺激を得る食物)であった梅干しや梅びしお(梅の肉をすりつぶして砂糖をまぶし加熱した嘗めもの)摺るの原料の殆どが、この付近から供給されたと言う。ことのほか見事な梅林で、江戸中期には既に、風流人も賞賛する名所であったと言う。

後に広重の江戸名所百景に画かれ、梅田の梅屋敷として有名になった。この梅屋敷は、文政初め頃(1818~1830)東海道で和中散という道中常備薬を商う山本中佐右衛門の倅(せがれ)、久三郎が自家の庭つづきに近から梅樹を集めて庭園を造り、同時に街道の休み茶屋を設け酒肴を出したのが始まりで、大層賑わったと言う。面積3000坪(9900m<sup>2</sup>)で、街道の両脇にまたがり、見事な庭園であったと言う。しかし、大正7年(1918)京浜国道の拡幅の為東側を、同じ頃、京浜電車が西側を通る事になり、園地が縮小され、往時の姿を失った。

## 5・古川薬師(子育薬師)別称・安養寺(西六郷2-33・真言宗智山派・医王山瑠璃光院・本尊五智如来・寺宝薬師如来坐像、釈迦如来坐像、阿彌陀如来坐像のヒノキ寄造彫願3如来坐像は平安後期作、都有形、薬師堂安置・古川薬師堂道標・※銀杏折取禁止制碑・富士講碑100近い講紋、講名刻・仏像群、本尊大日如来像十王像等35軀が区指定文化財)

和銅3年(710)行基の草創、光明皇后(701~60)によって七堂伽藍寄進され、再興開山は永伝(1568没)と伝う。薬師堂は正徳6年(1716)の建立。境内大銀杏乳根が垂れ下がっている事から、乳の出ない母親が乳が出ると言われ、子育薬師とも言われる。※銀杏乳根を切り取る人が現れ同禁止制碑元禄3年(1690)安養寺5世栄弁石碑建立。

## 6・宝幢院(村ノウシ・真言宗智山派・大綱山光明寺・本尊、阿彌陀如来大日如来・寺宝、銅鐘延宝9年鑄物御大工椎名伊予守良寛作重文、古文書宝幢院文書都指定文化財非公開・阿彌陀如来立像非公開区指定文化財、梵鐘、水船=手水石区以上指定文化財)

開山は行観覚融(保元元年1156寂)。享禄5年(1532)北条氏より寺領寄進の虎の御朱印章が下付され同家4代のものと、徳川家康以下累代將軍の御朱印章現存。

## 7・東陽院(真言宗智山派・雲山安楽寺・本尊如意輪観世音旧本尊大日如来と言う・釈迦如来立像非公開、観世音菩薩立像以上区指定文化財)

開基栄尊(寛永21年1644入寂石碑)。弘法大師坐像及び厨子区指定文化財非公開;寛永12年(1635)に、栄長が願主となり、道泉、妙蓮が施主造立。釈迦如来立像;建永12年開基栄尊の代に、妙蓮が施主造立。観世音簿幸生立像;正保3年(1646)竹之内長右衛門夫妻が願主造立。

## 8・宝珠院(真言宗智山派・本尊阿彌陀如来聖観世音菩薩・寺宝僧形八幡大菩薩涅槃像軸)

天喜2年(1054)源頼義東征の帰途、八幡宮を建てその傍らに1宇を建立、御幡山宝珠院建長寺と号した。承応2年(1653)中興開山弁栄が再興、以来代々八幡宮を司官した。徳川家朱印地十石を寄進、葵紋許された。

## 9・六郷神社(祭神応神天皇・例祭6月3日・神紋葵・社宝神獅子頭源頼朝公奉納、献額由井正雪筆、太刀頭一文字吉家作・1月7日流鏑馬・狛犬貞享2年1685六郷中町願主石工三右衛門刻・獅子舞・八幡塚)

天喜5年(1057)、源頼義・義家が奥州平定のみぎり、当地の老杉に源家什宝の白旗をかけ遥かに石清水八幡に対し戦勝を祈願、凱旋後奉養のため当社を建立した。文治年中(1185~90)、頼朝が社殿を再営、当社社宝となった神獅子頭及び浄水石を寄進。又梶原景時に命じて石の太鼓橋を架設せしめた。後、徳川家康公より朱印18石を受け、葵御門の使用を許された。明治初期郷社に列す。

## 10・北野神社(祭神菅原道真・例祭5月25日・社宝獅子降魔狗運慶作、絵馬富岡鉄斎外史、鳥居額近衛家源卿?)

寿永元年(1182)、源頼朝公が東国征討の際、小石川の江湖に船を止め難風をしのぐ折り、夢中に衣冠光顔の人が牛に乗って現れ、武運満足すれば吾に小社を営報すべし。と託してかくられた。公が目覚めて見れば牛と見たの



は盤石であった。本国に帰り同年頼家誕生、翌年平氏敗走、神徳を感じて、奉養として当社を建立したと言う

又、8代將軍吉宗の乗馬が暴走したとき、この天神が落馬を止めたと言う伝説がある。境内に六郷の渡し場碑。  
船渡し碑

慶長5年(1600)六郷橋を架けて以来しばしば洪水で流され、17世紀末以来渡しにかえられた。隣接する宮元台緑地には大正14年(1925)に架けられた鉄橋アーチが残されている。明治7年(1874)木造橋がかけられるまで、旅人は現在の新六郷橋北詰めの約150m下流から渡しに乗り、橋南詰め(川崎側)の約50m下流の船着場で降りた。堤防上にある船渡しの碑は、明治元年(1868)明治天皇が初めて江戸城へ入るために此の地に到着したとき、多摩川に船を並べ、その上に板を並べて渡ったことを記念したものである。

「Ⅳ」7月1日(木)戸塚宿から藤沢宿へ 集合;JR戸塚駅橋上(他に地下改札有り間違わないで下さい)改札口  
行程;戸塚駅発バス移動→バス停「西横浜国際病院前」→お軽勘平の碑→松並木と一里塚→大運寺→ウィトリッヒ  
の森→龍長院→八坂大神→影取池跡→バス停「鉄砲宿」→大船駅又は藤沢駅。

昼食場所;戸塚茅ヶ崎線(大鋸鉄砲宿)「並木茶屋」もやし定食有名630円程。TEL0466-22-7176

#### 1・戸塚宿

江戸日本橋から京都三条大橋まで126里半、品川に始まって大津に至る東海道宿場が置かれたのは慶長6年(1601)のこと。戸塚宿が出来たのはそれから3年、今年で400周年を経過しています。戸塚宿が設置される前、保土ヶ谷宿と藤沢宿の距離は4里と長く、道も険しかった。その為、人馬の往来は難儀になり、物資の運搬に支障が出た為、時の土地有力者(沢辺宗三が主唱者)が幕府に訴願し、設置(47番目)に至ったと言われています。

日本橋から戸塚までは10里18町(約42キロ)健康な男子の1日の歩行距離が十里と言われる時代、早朝日本橋を出発し最初の宿泊場所が戸塚宿、大山道・鎌倉往還の分岐点でもあり、賑わいを見せていたという。

規模(正徳元年、江戸時代=1771)宿高2326石622合

家数613・人口総数2906(男1397・女1509)・旅籠屋75・本陣2・脇本陣3。

#### 2・大坂・庚申塔群

江戸時代は急な坂道最初の坂一番坂(登り一丁余、約60間109m・1/10登り勾配と平場150m)、の坂二番坂(登り30間、約55m・1/12登り勾配)と呼んでいました。広重の行書東海道の戸塚宿は「逢坂より宿をみる図」となっており、初版では、駕籠はとの旅の男と坂を上がってくる僧侶の姿も描かれている。

庚申塔群;庚申塔(延宝5,6年=1677,78・元禄4,6,8年=1691,93,95・正徳4年=1744・享保3年=1718・寛保3年=1743)・馬頭観音碑(文政元年1818)。

#### 3・第六天(天神第六代の面足能命オホミコト、惶根能命カネミコトの二柱)

境内に産魂祠(天保10年=1839)・藤行翁之碑(嘉永7年=1854)。

#### 4・上方見附

東側大坂下バス停の所に高さ60cm、幅105cm、長さ150cmの凝灰岩(ギョウカガン)切石の石積に囲まれた中に松が植えられていた。反対側にも掲示板の裏に石積が残っている。東側は壊され表示板のみ。

#### 5・お軽・勘平の碑

仮名手本忠臣蔵(カデテホンチュウザウ)で有名な浪士早野勘平(赤尾浪士の一人菅野三平に擬すお軽の夫で、誤って舅ヱトを殺したと思い自害する)と腰元おかる(山崎の与市兵衛の娘、勘平の妻、夫の用金達のため、身を祇園の一力楼に売る。由良之助の密書を見た事から兄平右衛門に殺される)との恋の逃避行に戸塚の山中を選ぶ。戯曲では有るが、戸塚の地名が出る。

仮名手本忠臣蔵;浄瑠璃の1つ。並木宗補他合作の時代物。1748(寛政元)竹本座初演。赤尾浪四十七士が敵討(カキウチ)の顛末(テマツ)を、時代を室町期にとり、高師直(カシモナカ、~1351・忠臣蔵では吉良上野介擬する)を塩谷判官(シヤハガン・浅野長矩カガリ、内匠頭に擬する・太平記出雲守護塩谷高貞の名を借りたもの)の臣大星野由良之助らが討つ事に脚色したもの。忠臣蔵と略称。全11段より成る。技師劇中の代表作。後に歌舞伎化。

#### 6・吹上の一里塚・松並木(江戸から11番目・民家の一隅の立て看板)

古東海道は足柄坂→相模中央→都筑→橘→下総へと通じていた。天正18年(1590)徳川家康の江戸入りの際、道を南に求め、初めて戸塚を通過したのが今の東海道と言う。慶長9年(1604)戸塚宿置かれる。徳川3大將軍家光の時、早(日照り)が続き、歩行者に死者が続出、幕府は土井利勝に命じ歩行者のために東海道の松を植えさせた。然し、何処までも松並木では退屈するであろうとの、土井利勝の意見で、一里ごとに一里塚(目立つ様、クヌギ、樺、等植えられた・5間四方高さ1丈基本規模)が築かれたと言う。戸塚区には、品濃町・吉田町・原宿にある。

#### 7・浅間神社

境内に庚申塔(貞享3年,1686・元禄6年,1693・享保12年,1727・安政5年,1858)・富士講碑(延宝8年,1680)。

#### 8・大運寺(浄土宗・唐沢山・本尊、阿弥陀如来立像南北朝時代作・寺宝、一心經一卷、雷獣肉附毛地藏画、地藏石像空

## 海作・境内に観音堂、庚申堂、江戸時代作青面金剛と三猿

慶長元年（1596）に建立。開山は誓譽上人、宗祖法然上人のお念仏を継承する寺。新本堂平成10年完成。

大銀杏樹齡400年、周囲4.5m市指定名木古木・徳本上人名号角柱碑・地藏立像（いぼ地藏）・慶安2年（1649）三代將軍家光の時、三石五斗の御朱印賜る。境内にあった大正池は、今は団地内になっている。

○大運寺への歩道橋下空き地（国道下り線）庚申塔群；鎌倉道、大山道、ほしのや道道標兼出羽三山碑（文化8年1811）

庚申塔（造立不明）・馬頭観音碑（天保6年1835・15年1844・明治7年1874）・供養碑（大正3年1914）。

### 9・ウイトリッヒの森（伝説小栗判官にでる照手姫がけしかけられた荒馬「鬼鹿毛」が住んでいたと言う鬼鹿毛山にガヤマがあった処と言う・昭和62年5月30日開園・3.1㍓・機械技師）

スイス人アーノルド・ウイトリッヒ氏は故郷の風景に似ていることから、この森を愛したか昭和58年に亡くなると、妻の津田ひ亭さんが、横浜市に寄贈されたもの。貴重な植物、野鳥・昆虫が棲んでいる森・散歩道全長約900m。竹林・エゴノキ（コブのある木）など。

### 9・龍長院（曹洞宗・天王山・本尊、釈迦牟尼如来・寺宝、地藏菩薩、伝弘法大師作、不動明王、知證大師作、他3点）・人面魚が池に泳いでいたと言うが？

延徳年間（1489～92）、相模入道が西林龍瀧庵を創立。開山は堅心。その後慶安元年（1648）永井丹波白元が此の地を平定した際、鎮護国家の祈願所として堂宇を改築龍長院と改称、なお鎮守不動堂を建立、地證大師作の永井家伝来の守護仏不動像を安置したと言う。関東大震災にて消失したか昭和41年現本堂を再建。銀杏の大木と池がある。池には小さな滝が流れ込んでおり、人の顔によく似た鯉の人面魚が泳いでいる。庚申塔（文政8年、1825）・不動明王（昭和8年）・国道1号線影取第1歩道橋の所に龍長寺入口を示した不動明王がある。

### 10・八坂大神（祭神、素盞鳴尊）・かまくら道

創立は享保18年（1733）である。二股に分かれたツゲの木や道祖神・庚申塔等がある。その中に「かまくら道」の道標があつて、寛政7年（1795）と刻字されている。このかまくら道は通称「西の道」といわれている。西の道は、府中・瀬谷から上飯田を通り藤沢を抜け、鎌倉に入る道であつたと言われる。

庚申塔（延宝3年、1675・寛政7年、1795）・地神塔（嘉永4年、1851）・道路改修記念碑（昭和35年）・案内板。分社（東俣野町1637） 庚申塔（延宝7年、1679）・天保10年、1839）・双体道祖神（文化12年、1815）。

### 11・もののふの道・物見遊山の道かまくら道

化粧坂から、柄沢（カサリ）・俣野・飯田・瀬谷・と境川に沿って北上し府中へと通じた道は、和泉町天王森付近を通っていたと思われる。江戸時代は、鎌倉・江の島への物見遊山とともに、生活の道として賑わった。「かまくら道」「藤沢八王子道」の道標が各地道沿いにみられ、今もその面影を随所の残している。かまくら西の道；龍長院、八坂神社、旧東海道、影取町、大船方面、鎌倉へ。

### 12・諏訪神社（影取町88・不詳・山谷仲町にあったものを明治40年廃寺常久寺跡に移転・庚申塔、貞享2年）

### 13・共栄会館前の石仏群（東俣野町64）

庚申塔（延宝5年、1677・元禄5年、1692・文政10年、1827・慶応2年、1866）・地藏像（元禄2年、1689）・地神塔（弘化5年、1848）・木食観正碑（文政3年、1820）。

### 14・影取池（町名になった・国道1号線と藤沢バイパス分岐点、東南方公100mの谷間に池があつた）

旅人が池に影を落とすと此処に住んでいる大蛇に影を取られて死ぬという伝説。昭和14年横浜市に合併時、町名を伝説影取池にちなんで影取町とした。大蛇を鉄砲で撃った所を鉄砲宿と呼ぶようになった。

## 「V」9月2日（木）藤沢宿パート3

（集合；小田急線「藤沢本町駅」改札口10時厳守）

行 程；小田急線「藤沢本町駅」→（真源寺）→上方見附跡→三津橋家行在所跡→おしゃれ地藏→養命寺→本願寺→柏山稻荷神社→（参考；羽鳥御霊神社→耕余塾跡→城神明社）→四ツ谷動・大山道道標→一里塚→二つ稲荷→（参考；常光明真言塔・巡礼供養塔→伊勢屋墓地→本立寺）バス移動「羽鳥駅」→JR辻堂駅着。

食事場所；辻堂駅付近にて昼食東口通り「Denny's」 円。TEL0466-37-2718

### 藤沢宿

藤沢は遙か昔、鎌倉時代から時宗総本山、遊行寺の門前町として栄えた。江戸時代慶長6年（1601）この藤沢宿の成立で更に大きな発展を遂げたと言う。更に江の島が約1里（約4km）とそばにあったため、幕末期には、70軒以上もの旅籠屋が立ち並んだ。今や行楽地のイメージの強い江の島は、当時は庶民の弁財天参詣で賑わい、多くの史跡が残っている処です。

規模（正徳元年、江戸時代＝1771）宿高1559石840合

家数919・人口総数4089（男2046・女2043）・旅籠屋49・本陣1・脇本陣1

### 1・真源寺（浄土宗・風早山・本尊、阿彌陀如来・三橋家檀家・無縁塔＝通称万霊供養塔、参道登り本堂左手）

開山は、願譽秀政天和元年（1681）と伝える。文政3年（1820）台町、白旗横町を全焼する火災で、本

尊、過去帳など焼失。相模国準四国88ヶ所68番と65番の大師像が現存、本堂に安置。左に藤沢山33世締如上人の石塔、六字名號「南無阿彌陀仏」とある。時宗の石碑が有り奇異感じる方もいるが、藤沢斎場にある供養塔と同じ意味。無縁塔は寛政9年（1797）建立。三橋家は江戸末期の江川代官に信頼され宿場内外の治安に努めた三橋善太郎がよく知られる。

## 2・上方見附跡

### 3・三橋家行在所跡（郵便局隣の三橋ビル一階通路に説明板・天皇行幸時仮住）

### 4・おしやれ地蔵祠（天明8年、1778造立銘双体道祖神塔、女性の願い何事も叶える・満願の折木で御礼）

### 5・養命寺（曹洞宗・地引山・本尊鈴木彫葉師如来立像、左手に薬壺玉顔漆塗昭和3年解体修理脚裏に建久8年1197墨書銘、鎌倉初期運慶様、毘首かつま作重文奉安殿安置、脇侍日光、月光菩薩像南北朝作・12神將・格天井224面天井絵慶応2年1866室町期作非公開・相模国準四国88ヶ所16番弘法大師像・舟型庚申塔貞享3年1686・地蔵尊・三界万霊供養塔安永4年1775）

文禄元年（1592）没、本寺宗賢院3世天龍和尚創建とされ、藤沢宿最南端にあり、賑わいの地にあった。

### 6・本願寺（浄土宗）；明暦2年（1656）の創建。青面金剛刻んだ庚申塔（享保元年、1716）等石造物・山門出て右手、桜木の下に茂みに双体道祖神塔（安永8年、1779）・馬頭観音菩薩（天保14年、1843）等。引地橋（引地橋西信号・引地川・川べり遊歩道）

長後地域には東に境川・西に地引川流れている。自然条件に恵まれ農耕が開始され、大庭御厨で有名な大庭の荘（オハノシヨ）に隣接していた。平安時代末期には、大庭景親に対し、桓武平氏の流れをくむとされる、渋谷重国が治めていた。当寺の本拠（館）は現天満宮附近とされる。その後、渋谷一族の中心は、綾瀬市早川城山公園内早川城趾に移されと言う。渋谷荘構成は、現、長後・高倉・下土棚・円行・用田・菖蒲沢の藤沢地区が該当する。江戸時代には旗本領。

御詠歌「とくめくる人の命をやしなふて車引地の名をのこしける」

### 7・柏山稲荷神社（カサマ・祭神、宇迦之魂命）・巖島千人力弁天社

創立は保元3年（ワケノ・1158）大庭城主大庭景親が城の守りのため、引地川を堰き止め、水門の護り神として勧請された。境内弁天社は、「女の人だけで、社殿を建てよ」龍神大神の夢のお告げがあり、女千人をもって社殿建築を努力したとされる伝説。弁天社も大庭景親が巖島神社の分霊を勧請したと言う。

### 8・城神明社（カ）神明社（祭神天照皇大神・例祭8月4日・昭和3年拝殿、同8年神楽殿再建・庚申供養塔他石造物）

永久5年（1117）創建。鎌倉権五郎景政が所領の大庭荘を伊勢神宮に寄進し、大庭御厨が成立したが、その時天照皇大神を勧請したと伝う。此の城（カ）の地域の何処かに大庭氏の館があったと推定される。

### 9・羽鳥御霊神社（祭神、神産霊神カミミズノカミ、高産霊神カミルノカミ、玉積産霊神タマツミノカミ、足産霊神タラシノカミ、生産霊神イムズノカミ5神・羽鳥村鎮守）

境内に、梵鐘（至徳3年、1386銘市指定文化財千葉香取神宮別当神宮寺から村人が非常用警報用に買入れた・市指定文化財）・道祖神塔（本堂右手奥・天保4年、1833）・庚申供養塔三猿像（寛文7年、1667三猿配した、市指定文化財）。神産霊神（天地開闢、造化の神・高産霊神）。

### 10・耕余塾跡（元羽鳥小学校にあった勝海舟＝勝安房筆「小笠原先生碑」・吉田茂首相・町医者、自由民権運動家、平野友輔等塾生であった・現羽鳥小学校前昭和39年建立農地基盤整備事業讃える土地改良記念碑）

明治5年（1782）3月、羽鳥村廃寺徳昌院庫裏を校舎として、名主三背（サシ？）八郎右衛門が儒士小笠原東洋を招いて開設「読書院」始まる。明治6年「学制」に基づく羽鳥小学校設置されるが、読書院は私塾として継続し、明治11年には塾者増加のため新校舎を落成「耕余塾」と改め、県内に公立中学整備されるまで隆盛を極めた。

### 11・大山道道標（赤羽＝茅ヶ崎一田村の渡し＝馬入川一大山への道）・四ツ谷不動堂

東海道が藤沢バイパスと合流する地点に、大山道の道標「是より右大山道」（延宝4年、1676）を納めた小堂があり、右に大山道の一の鳥居が立っている。小堂の中には、不動明王が安置されている。

### 12・二ツ谷稲荷

二ツ谷稲荷は二ツ家とも書き道辻に二軒家、二軒茶屋があったとも言われたことから此の名が。

### 13・一里塚（国道羽島交番前信号付近・日本橋から13番目）

辻堂の地は多くの辻に囲まれており、その辻を、かつて大山詣でや江の島詣での旅人が行き交い、又、藤沢宿への買い物等、幾多の人々は生活利用していた。昔辻堂村は、宝泉寺・辻堂諏訪神社近くの「四つ角」を中心に東町、西町、南町、北町の集落が形成されており、当時も此処を中心にと考えると、四ツ谷大山道へ、藤沢道へ、鎌倉道へと、道が放射線状に伸びているのが明瞭となる。古き道を辿（外）りながら社寺、石仏などを訪ね往事の面影を散策する。

### 14・常光明真言塔・巡礼供養塔（南の寺光明真言道場宝泉寺への道標）・巡礼供養塔（国道向かいに西国坂東秩父巡礼塔・享和3年1803用田村の人々により道中安全祈願建立）

## 15・伊勢屋の墓地

二つ谷附近街道立場茶屋の1つ、明治維新後は、酒屋を営んでいた事知られる。

## 16・本立寺（日蓮宗・宝光山・本尊十界曼陀羅、大正13年静岡県清水市興津から移入・紫陽花の参道）

創立は文禄元年（1592）。

ご参考；「小栗伝説」遊行寺・ウィットリッヒの森他藤沢市内に多くある。

その原型は、室町時代15世紀半ば、鎌倉公方家と管領家との間の争い・上杉禅秀の乱に関連して滅亡した常陸国の小栗家との御霊を鎮める巫女の語りとして発生したものとされる。「何故、常陸国の語が藤沢」で？これは、室町時代末に原本が成立していたとされる「鎌倉大草紙」に、その記が見え、更に同時代末から江戸時代にかけて流行した説教浄瑠璃に「おぐり判官」があり、時宗教壇の動きと絡み全国的に波及したものと考えられる。上杉禅秀の乱に関連して遊行寺には、国指定史跡「敵味方供養塔」があり、この時代、何かの史実があつての伝承と思われる。江戸時代に入り、浄瑠璃では、近松門左衛門の「当流小栗判官」、竹田出雲等の「小栗判官車街道」等を生み、歌舞伎でも人気を博し、豊国の浮世絵、更に、浅井了意著「東海道名所記」などで紹介されている伝承は、根は同じとしても、その筋書きは「鎌倉大草紙」系と説教浄瑠璃系とに大別される。何れの史実其のものではなく、遊行寺（鎌倉大草紙系）を中心とする時宗教団と深く関わり伝承されたと考える。

昔小栗判官は常陸の国住む。藤沢へやって来た。御所ヶ谷に照手姫の父、横山将監の御殿「乾」（東俣野御殿から見て北西方角）の御殿があった。東俣野の殿窪にも御殿があった。そこへ来た小栗と照手姫は愛し合うようになった。横山の父が怒って、無理難題を吹きかけた「この暴れ馬を乗りこなせたら姫をやる」小栗は乗りこなす。仕方なく照手を婿にしたが気に入らない、それで毒酒をのました。小栗には10人の家来がいた。その家来も殺して、火葬にしたが、小栗だけは土葬にした。そこが小栗塚と伝わる。所が生き返って、そこから出て土をふるった処が、土震塚と言う。藤沢民話から要約。

## 「Ⅵ」10月7日（土）茅ヶ崎宿・南湖富士・弁慶塚・鶴峰八幡宮・旧相模川橋脚

（集合；IR東海道線「茅ヶ崎駅」改札口10時厳守）

行程；茅ヶ崎駅→1里塚→円蔵寺→間の宿南湖・南湖茶屋→南湖左富士→弁慶塚→参道・鶴峰八幡宮→旧相模川橋脚→上国寺→信隆寺→バス移動バス停「今宿」（11/24, 54, 56, 12/24→茅ヶ崎駅）。

食事場所；茅ヶ崎駅南口ジョイパート1・2階「花はん」一汁三菜定食（魚と天ぷら半々予約）1370程。

電話；0467-83-1031。

### 茅ヶ崎宿（間の宿）

藤沢、平塚宿間の間の宿として賑わった此の地には、三つの立場があった。四ツ谷（四屋）、菱沼（牡丹餅）、南湖（南郷）の各立場。中でも南湖のお立場は茶屋町と称されるように大きな立場です。別添散策案内図に貼り付けた絵図は東海道分間絵図（元禄3年1690）に描かれた南湖周辺の様子です「なんこ ちゃ屋かすかす」と書かれています（現在南湖1丁目周辺と言う）。

#### 1・東海道松並木

#### 2・一里塚（日本橋14番目）小さな可愛い一里塚復元

#### 3・円蔵寺（高野山真言宗・本尊、薬師如来厄除大師・寺宝、不動明王図＝鎌倉期願行作）

開基不明、中興開山は善譽。慶安2年（1649）、徳川家光から朱印状が与えられており、江戸時代には13の末寺を持つ中本山。本尊は病気に霊験あらたかと伝う。

#### 4・十ヶ坂（現十間坂バス停辺り）

#### 5・第六天神社（茅ヶ崎鎮守・祭神淤母陀流木尊・神、詞志古陀泥神・例祭3月29日・神紋7曜・寺宝古刀一振、掛軸山岡鉄舟筆、庚申塔一對享和9年建・芸能浜降祭7月15日県無形文民俗文化財指定・郷土開拓時代よりの鎮座の古社・昭和14年村社）

鎌倉時代からしばしば兵火にあったほか、明治中期の大火や、関東大震災に被災し、社殿・宝物・古文書等焼失

#### 6・八坂神社（祇園様、本宮、京都八坂神社・祭神素盞鳴尊・悪病退散・病氣平癒・災害防止・庶民安堵）

第六天社社殿西側に祀られていたと言う八坂神社は、平成4年の第六天社本殿のご造営に際してええ、相殿として祀られていたことが明らかになった。明治中期茅ヶ崎大火により罹災後の再建難しく、止むなく相殿として祀られていたと思われる。この度のご造営を機会に、御神霊を蘇（よみがえ）りご神威の発揚を願い、此の地に奉遷されたもの。

#### 7・間の宿南湖（今・南湖一丁目辺り）・南湖の立場茶屋南湖の立場茶屋

本陣茶屋；「御小休本陣 松屋 清左右衛門」・脇本陣茶屋「江戸屋 金次郎」

茶屋；「橘屋 三次郎」、「藤屋 大五郎」、「藤屋 金蔵」、「藤屋 平八」などがあつた。

大山千軒、須賀（平塚）千軒、南湖は360軒と江戸時代賑わっていた所を言った。南湖の成立は元禄から享保（1688～1735）頃。

本陣茶屋、御小休本陣松屋清左右衛門（二階建て表口20間）で、明治元年10月10日明治天皇が東京へ向かう途

中休憩・12月9日帰京時重田屋で休息・明治8年5等郵便局開設。

南湖名物；享和元年（1801）幕臣大田南畝（ナボ）が記した「改元紀行」に脇本陣茶屋江戸屋に立ち寄り、名物「ひしこ（片口鰯）のナマス」と「松露（茸の一種）の吸い物」を食したと記している。江戸屋の「あんこう（オハギ）」も名物だったと言う。

#### 8・南湖左富士（案内図貼付絵参照）

安藤広重の傑作「東海道名五十三次名所絵図」藤沢で、南湖の松原左不二として描かれているように、江戸を発った旅人は富士山を右前方に見ながら旅する事になりますが、この南湖では東海道の左側に富士山が見えます。東海道の左富士が見える場所は、南湖と吉原の2ヶ所のみです。

#### 9・弁慶塚（現地説明文由来・民家私有地内参詣可）

武蔵国稲毛（川崎市）の領主、稲毛三郎重成が亡妻の冥福を願い相模川に橋を架け、建久九年（1198）十二月二十八日、その落成供養を行った。頼朝はその帰路、鶴峯八幡宮付近にさしかかった時、義経・行家ら一族の亡霊が現れ、乗馬が棒立ちになり、頼朝は落馬して重傷を負い、翌、正治元年（1199）一月死亡した。後年里人達は相計り、義経一族の霊を慰めるため、ここに弁慶塚を造ったと伝う。

#### 10・鶴嶺八幡宮（祭神、菅田別命・神天皇、大鷦鷯命・仁徳天皇（オホセヨリノミコ）・佐塚大神、菅原道真・祭礼、9月15日・社宝大銀杏樹齢数百年県記念物、樹齢950年以上？参道と松並木市史蹟名勝・芸能浜降祭、7月15日）

康平年間（1058～1065）源頼義が東征の際、石清水八幡宮にならい懐島郷本社丘に1社を、創建したのが当社である。その後、源氏代々の崇敬篤く、頼朝は治承年間（1177～81）懐島郷の地若干を寄進。建久年間（1190～99）、社殿修復。正保年間（1644～47）常光院の僧朝恵（チヨウケイ）は、荒廃した鶴嶺八幡社の復興を、浜之郷村の領主、山岡景信の援助で、社殿を再興、慶安2年（1649）徳川幕府（3代将軍家光）から7石の朱印地を得た。昭和9年郷社に列格。境内大銀杏は源義家が戦勝祈願のため植樹したと言う。江戸時代旧暦6月29日には、南湖の浜へ御輿の浜降際が行われた。

浜降祭（ハマノリサヘ）；7月20日（15日資料も）払暁、寒川神社を中心にして、茅ヶ崎及び寒川の神社の神輿約40基が茅ヶ崎市南湖の海岸に集合して行われる祭礼で、県の無形民俗文化財に指定される。19日宵宮、神輿へ御霊移し・翌日空が明ける頃それぞれ式場に到着・神輿は渚から海にかつがれ、禊ぎがされ、砂浜を練り回り、所定の位置に鎮座される。その後、祓いの祠から献饌（ケンゼン・お供え）の儀、祝詞（ハコト）奉上、玉串奉奠（オウマシノウテン）、撤饌（セツゼン）の儀式。

女護ヶ石；女性の守護神として信仰されていた石神、体の悪いところ、願い事のある部分に※「祓えたまえ、清めたまえ」と三回心に念じながら石を撫でて、体の部分も撫でる。

ガン封じ祈願石；ガン等も、を封じる霊石として信仰されている。※と同様に3回念じながら石を撫でて、体の部分も撫でる。

参道松並木；朝恵は社殿再興を記念して、南大門馬場420間（約760m）の左右に松を植えました。此が、今残る参道「八丁松並木」で市史跡・天然記念物です。この松並木の美しさを、「18世鳴立庵芳女」は、「今もなお朝恵の松の若みどり」と詠んでいます。

ご神木；2株1つは「榎」、周囲2丈、今は枯れて値幹部のも・もう一つは「源義家お手植え・鶴峯大銀杏、周囲1.8丈・県文化財県内一番古いと言う。

#### 11・龍前院（法相宗→古義真言宗→永正5、1508再建、曹洞宗・懐島山・本尊、阿彌陀如来坐像）

建久2年（1191）再建で大仏殿や三重の塔が建てられ多くの僧坊があったと言う。鶴峯八幡宮と同じ平良正の開基と伝う。墓地には浜之郷領主であった旗本山岡氏歴代の墓と、二階堂十人墓と言われる南北朝前後の10基の五輪塔がある（1説には、頼朝が相模川橋渡り初めに同行した警護武士が落馬の責任をとって切腹したこの10人の墓とも言う）。

梵鐘；茅ヶ崎市重要文化財指定、江戸時代に浜之郷村領主、山岡氏5代目景忠が親族供養のため鋳造させたもの。元禄7年銘（1694）がり、第二次世界大戦での供出も免れた名鐘である。

#### 懐島郷（ヲコシマ）

鶴峯八幡宮一帯は当時、大庭御厨（オホハシリヤ）のうちの懐島郷と呼ばれた。大庭御厨は後3年の役で活躍した鎌倉権五郎景正が、藤沢の大庭を中心に開発し、伊勢神宮の御厨としたもので、懐島はその西端にあって、相模川が乱流して作った中州と思われる。景正の子孫で懐島氏を名乗った景義が郷の開発、川の氾濫鎮め、豊かな収穫、の守護神として八幡宮を建立したと思われる。

#### 12・梅雲寺（浄土宗・本尊、阿彌陀如来・寺宝、三宝大荒神、円仁作唐より帰国途上暴風雨の災害を祈願船中彫刻）

明治初年にまとめられた、「皇国地誌」には、慶長4年（1599）に寺名の由来となった広誓梅雲という浄土宗の僧が開いたと伝う。建立は長禄7年（1463）と伝う。

#### 13・旧相模川橋脚（国史跡）（茅ヶ崎駅バス平塚行き町屋下車10分）

1923（大正12）関東大震災の際に、水田の中から出現、現在池が作られ保存されている。この橋脚は鎌倉

時代の1198年（故沼田頼輔氏の博士が建久9と考証）稲毛重三郎重成が亡妻の追善供養の為に架けた橋と推定されている。橋脚は直径60cmヒノキ丸柱、3本横一列に並んで4列あり、そこから橋幅が7mであった事が分かる。16年11月現在永久保存工事中、更に1本発見。この橋の渡り初めをした源頼朝が落馬して死に、後に重成も討たれている。実朝が修造させたが、相模川に永久橋が架けられたのは1908（明治41）である。この橋脚の出現で鎌倉時代には相模川がここを流れていたことがわかる。又、平塚に流れる馬入川名は頼朝が落馬し時、乗っていた馬が溺れ死んだ事からと言う。平成19年修復保存工事完了。

- 14・上国寺（日蓮宗・妙厳山大乗院・本尊、木造日蓮上人像、胎内頭部後面に永正11年3月、1514墨書市内最古、平成8年11月に市重要文化財に指定）

開山は弘安7年（1374）に没した千葉県中山の法華経寺3世の日祐上人。

- 15・信隆寺（日蓮宗・本尊室町期銘の日蓮坐像、平成8年11月市重要文化財指定）

寛永元年（1624）、甲斐武田氏の流れを汲む武田信就が先祖の菩提を弔うために創建した。出家した信就は信隆院日閑と名乗り、寺名とした。寛永元年の銘が刻まれた鰐口（社殿正面塔つるす音響具）が伝わる。

## 「Ⅶ」 11月4日（木） 東海道「平塚宿」 （集合；JR東海道線「平塚」駅改札口10時）

行程；平塚駅→馬入川渡船場跡→馬入川遭難者供養塔・真福寺内→丁髷塚→馬入一里塚→平塚八幡神社→晴雲寺→江戸城井戸枿→江戸見附跡→脇本陣跡→高札場跡→本陣旧跡→西組問屋場跡→要法寺→平塚の塚→お初

の墓→春日神社→上方見附→教善寺→葉師院→東組問屋場跡→お菊塚→昼食場所。

昼食場所；駅ビル5階「いっさい」釜炊ごはん 1500円/程。TEL；0463-23-2895。

平塚宿「伝馬制度が設定、1601（慶長6）、最初に誕生・日本橋から7番目・15里30丁（62km）」

最初に出来た理由は、平塚の隣村、中原にある中原御殿（家康、鷹狩、駿府往来時専属宿泊所、明暦3=1657引払）・中原代官屋敷への通信伝達中継基地として、東海道で最も近い平塚を必要としたと考えられる。

問屋2・本陣1・脇本陣1・旅籠54・大磯宿との間27町（約2943m）東海道宿駅2番目の長さ（1.1km）・西から柳町・西仲町・東仲町・24軒町・18軒町の5町で構成。

東海道宿駅（天保14年、1843）平塚宿石高692.809）

家数443・人口2114（男1106・女1008）・旅籠家54（大2中29小23）・本陣1脇本陣1

次の宿までの駄賃・人足賃銭（文）正徳元年（1711）荷物34・軽尻23・人足18

天保15年（1844）荷物51・軽尻35・人足27

- 1・馬入川渡船場跡（源流山梨県山中湖・全長120km・県下、最長・相模川下流は馬入川と言う）

江戸期幕府の定めにより橋は架けられず、専ら渡船によって往来した（当時の川幅100m）。渡船賃（1609・元禄3・川高札）；人間1人=10文、荷物1駄・駄賃（馬に付けた荷物36又は40貫目迄）=22文、乗掛荷（人が乗った馬に付ける荷物20貫目迄）=16文。1860（万延元・幕末）元禄3年の2倍。

江戸末期には、渡船等6艘を常備し、1艘に水夫3人ずつ配置した。

参考；金1両（明治以降俗に円と同義）=4分=16朱（銀60匁・文）・1両現通貨8万円のとした場合=4分（1分2万）=16朱（1朱5千円）=銀60匁（1匁約1333円）。

- 2・馬入川遭難者供養塔（真福寺内）

昔、馬入川は水量が多く、街道筋の一大難所とされていた。徒歩のためあるいは洪水のため遭難落命した人々が多い。

- 3・丁髷塚（チョンガ・蓮光寺墓地隅・喧嘩の下手人16人から切り落とした丁髷が埋まっていると言う）

江戸時代相模国府の端午祭に、一之宮寒川神社の輿丁（ヨウテイ）と平塚八幡宮の馬入村輿丁が大喧嘩をした。その下手人に対し代官（当地支配、韮山江川太郎左右衛門担庵・江川大明神）は丁髷を切り落とし斬首にかえた。

- 4・馬入一里塚（榎木町・慶長9年、1604江戸幕府は東海道を大改修し日本橋起点として一里塚を築いた）

- 5・平塚八幡宮「新宿、馬入村、八幡村の鎮守（相模国八幡庄総鎮守）・祭神、八幡大神（応神天皇）、神功ヅグリ

皇后（応神天皇母神）、武内宿弥ミコトの三柱・大銀杏・相模5の宮、芸能国府祭（コノハチ・5月5日・県民俗、座問答）参加・神紋鶴丸・例祭8月15日・浜降祭、神幸祭8月15日・歩射神事7月7日」

伝承では仁徳天皇の頃（4世紀）に、応神天皇（仁徳父神）を祀ったと言う。相模国八幡宮の中心、相模五ノ宮として国府祭に参加している。頼朝が政子安産祈願で神馬奉納など、鎌倉幕府の尊拝を得た。本殿前の鳥居1766（明和2）建立、1860（万延元）再建（青銅製）・鳥居の左右に氏子をはじめ、市域中心に、高座郡・愛甲郡など広い範囲で、計358名の姓名・村名が、狛犬は（青銅製）の左右台座に「神徳」「敬仰」の刻文字有る。

- 6・晴雲寺（浄土宗東京芝増上寺末・松風山光照院・本尊、阿彌陀如来・山門中原御殿門、伝徳家康ひばり門）

天正年間（1573～1592）の創建。昭和20年戦災焼失、同35年櫓、桧主材として本堂、庫裡復興。

- 7・江戸城の井戸枿（市民センター中庭）

昭和32年、市制施行25周年に、東京都から江戸城の石垣とともにもらい受けた。



- 8・江戸見附跡（宗善公民館入口に史跡碑・平塚新宿・長さ約3.6m、幅約1.5m、高さ約1.6mの石垣台）  
近年発見された写真資料を基にして復元したもの、長さ3.6m・幅約1.5m・高さ約1.6mの石垣を台形状に積み頂部を土盛りしてある。
- 9・脇本陣跡  
本陣の補助的役割・平塚博物館に「山本脇本陣絵図」が残っている。一般庶民の利用も許されていた。
- 10・高札場跡（長さ2間・横1間・高さ1丈1尺（1丈＝10尺＝約3m））
- 11・東組問屋場跡（慶安5年、1651八幡新宿に増設された）
- 12・本陣旧跡（平塚博物館に「加藤本陣絵図」残っている）  
代々加藤七郎兵衛を名乗り、屋敷；敷地600坪・110坪・総檜、平屋造り・乗馬のまま出入り出来る檜造りの門があり、此の門は、現在伊勢原市西富岡の小沢氏の表門として残っている（明治中頃移転）。
- 13・西組問屋場跡  
平塚には、問屋場が二ヶ所あり、西仲町；西組問屋場・二十四軒町；東組問屋場、十日毎に交替で業務。
- 14・要法寺（日蓮宗・日蓮宗・松雲山・北条時泰次男平塚左衛門尉泰知館跡、弘安5年、1282日蓮療養のため身延山から本門寺へ向かう途中止宿、日蓮に帰依日蓮宗に改宗）  
北条泰時の次男と伝える平塚左右衛門尉泰知（ヤスト）の館が此処にあり、1282（弘安5）に療養のため身延山から池上本門寺に向かう日蓮が止宿（1286・弘安5年9月16日・同年10月13日没・61歳・御会式）したと言う。その後、日蓮に傾倒した泰知は出家し、松雲山日慈と名乗り要法寺としたと言う。
- 15・平塚の塚（平塚地名由来）  
桓武天皇（平氏）の孫、高見王の娘政子（碑は真砂子）が857（天安元）此処で亡くなった。そこで塚をつくったが、年月を経て、上が平らになり、政子は平家であったので、平塚と呼ばれたと言う（平らな塚説も）。現在の塚の前にある碑は1920（大正9）と1957（昭和32）に立てられたもの。
- 16・お初（春日神社東側の墓地）  
「加賀見山旧錦絵・かみまき山にシエ」と言う歌舞伎で活躍する「鏡山お初」のモデル「たつ」の墓と顕彰碑。高さ50cm程の墓石には「安室貞心女」昭和6年10月9日と刻まれ観音像が浮き彫りされている。
- 17・春日神社（旧名、黒部宮・現在地よりかなり南にあった、津波で社殿が流され現在地に移されたと言う）  
平塚本陣の鎮守・祭神；天児屋根命アノコヤネミコ・武甕槌神タケミカヅチカミ・経津主命フサノミコ・比売神ヒメカミの4柱。1191（建久2）頼朝が馬入川の橋供養の祈願をし、橋が出来た後、造った神社。オッパイを飲ませている狛犬、足で子供を抱いている狛犬・神社に鐘楼は珍しい、神仏混合時代の名残か。
- 18・上方見附・広重の絵・平塚宿の碑
- 19・教善寺（時宗・本尊、花水川河口から出現と伝う）  
時宗開祖一遍知真住庵の地です。
- 20・薬師院（真言宗・通称清水の寺）  
宝暦年間に日誉法印が開山した真言宗の寺で、明治6年崇善館（りやんかん）第2支校が当寺に置かれ、昔清水寺といった。
- 21・お菊塚（怪談、番町皿屋敷モデル・怪談「番町皿屋敷」登場、菊女の墓跡に昭和27年有志によって建碑された。センダンの木・墓標は紅谷町公園一角）  
菊女は平塚宿の役人真壁源右衛門の娘で、江戸の旗本青山主膳に奉公したが、元文5年（1740）に家宝の皿を紛失したと手打ちにされたと言う。戦前は此の地は墓地で菊女の墓も此処にあったが戦争で焼け、戦後の区画整理で公園となりお菊の墓が立てられた。菊女の墓は現在立野町の晴雲寺に移されている。

Ⅶ 12月2日（土）大磯宿・旧東海道松並木・著名人別荘（集合；「JR 大磯」駅改札口10時）  
行程；大磯駅→旧東海道（釜口古墳・化粧井戸）→虎御石→本陣、問屋場→地福寺→海水浴発祥の碑・松本順→新島襄終焉の地→鳴立庵→藤村旧宅→昼食。  
昼食場所；鳥料理「杉本」 特注鳥料理ランチ 1、150/程。

電話；0463-61-0444

## 大磯宿

規模（正徳元年、江戸時代＝1771）宿高464石301合  
家数676・人口総数3056（男1517・女1498）・旅籠屋66・本陣3・脇本陣0

徳川家康が1601年、宿駅・伝馬制度を定めて以来、2001年で400年という節目を迎える東海道には、ご存じのように、53の宿場（神奈川県内では9宿）がありました。これらの宿場は旅の宿として繁盛し、現在もその周辺には名残を留める史跡や名所が数多く残っています。東海道開通と共に整備された、旧東海道松並木・本陣跡（小島・尾上・石井3陣）・著名人別荘跡、等の史跡を歩きます。大磯宿の始まりは、1620（元和6）に3

陣の一つ、尾上本陣の祖先、市右衛門が置いた宿で、続いて小島本陣、石井本陣が出来、宿場の体裁が整いました。  
又、大磯は日本最初の海水浴場発祥の地でもあります。(江戸後期3056人・676軒・66旅籠。

#### 1・旧東海道松並木

#### 2・釜口古墳

王城山続きの山腹にある横穴墓の大きなもので床面四畳半の広さで、天井は厚さ1mの一枚板の巨石を乗せている。構築は見事で神奈川県随一と言う。「青銅製散蓮華形小匙」、須恵器、鉄鏃(やじり)等の出土品の各部寸法は高麗尺が用いられ、豊富な経済力、高度な築造技術が必要であり、渡来の高麗人と思われ、七世紀末渡来の高麗王若光又は、それに準ずる人物の墓との説有り。

#### 3・化粧井戸

鎌倉時代の大磯の中心は化粧坂、長者林の付近と言われ、化粧井戸付近は遊興場として現在のそば屋(車屋)の前は三味線石橋と称し、虎御前も当時此の辺りに住み曾我十郎との恋に芽生えた場所である。虎御前も朝夕この井戸で水を汲んで化粧をした事からこの名が付いたと言われる。

#### 4・虎御石(延台寺;日蓮宗・本尊宗祖奠定イデイ?の大曼荼羅・寺宝曼荼羅江戸期開山日道筆、虎御石)

慶長4年(1599)身延山19世日道の創建。寺伝に寄れば、曾我十郎の恋人、虎御前が、十郎亡き後尼となって、十郎の供養のために「法虎庵」を結んだのが始まりと言う。開山は、当時の身延山久遠寺の法主であった日道上人です。

この寺に残されている「虎御石」は、虎の年、虎の日、虎の刻に虎御前が生まれた時に、子宝のお告げとして、弁財天から授かったもので、小さな石が虎女の成長と共に大きくなり、後に十郎が工藤祐経(カヅサネ)の刺客に矢で射かけられたとき、此の石の陰に隠れ、矢は石に当たって難をのがれたと言う。此の石を「身代わり石」と言うようになった。

#### 5・小島本陣・問屋場・尾上本陣・石井本陣

大磯に本陣が3軒あり、小島本陣はその一つ。屋敷は、間口9間4尺、奥行き26間で、坪数246坪。本陣は幕府公用の役人、大名、公家、高僧などの宿泊した高級旅館。建物は平屋で、門、玄関、上段の間、式台などがついていた。

宿泊する大名は、食料から繕、椀、調度品、夜具、風呂桶まで持ち込んだそうです。

#### 6・地福寺(古義真言宗・本尊不動明王・弘法大師坐像・地福寺文書・島崎藤村夫妻の墓・梅林)

837(承和5)に創建されました。本尊不動明王。室町時代の仏師但馬の作と言われる。「弘法大師坐像」は大磯町の重要文化財。寺に残る「地福寺文書」を見ると小田原北条氏に特別の保護を受けていた事が分かる。

境内に、小説「破戒」「夜明け前」や詩集「若菜集」などの著者、島崎藤村と、その夫人静子の墓があります。晩年、大磯に過ごした藤村が、この寺の境内の小梅林を愛し、遺言でここを永眠の地に選んだと言う。

#### 7・海水浴発祥の碑・照ヶ崎海岸(子陶綾の浜)・松本順謝恩碑

明治18年(1885)陸軍軍医松本順が、照ヶ崎海岸を開設した海水浴場が、日本の海水浴場の始まりでした。但し当時は病気治療や健康増進目的の客が主であった。

照ヶ崎海岸は、アオバトが、5月から11月にかけて、夜明けから9時ころまで、海水を飲み(塩分補給)来る事で有名。アオバトの羽は、全体が美しい緑色をしている。頭から胸にかけては黄色味が強く、腹部は白っぽい色。大磯から20~30km離れた丹沢山地辺りから飛来すると言われ、岩のくぼみで、海水を飲んだり、海面に浮かんだり、尾羽や脚を海水につけたりする。

毎年1月14日にこの浜で、セエノカミサン(道祖神)の火祭りが盛大に行われる。「大磯の左義長」と呼ばれ、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

#### 8・松本順

佐倉藩の医者佐藤泰然(順天堂医院開設者)の次男、長崎で医学を学び江戸幕府医学所頭取、家重、徳川慶喜(ヨシブ)の待医を努め、明治陸軍の軍医制度を確立した。

又、新撰組近藤勇の傷の手当てをしたり、近藤の没後、遺体を引き取って墓石を建てている。維新後は、山県有朋(アリト・軍人)に請われて初代陸軍軍医総監、明治40年大磯の自宅で永眠、76才。

#### 9・新島襄(ビロウ)終焉の地の碑(徳富蘇峰筆)

同志社大学創立者である彼が1890(明治23)病氣療養のため滞在して亡くなった旅館百足屋の跡に立っている。

#### 10・鳴立庵「シヅカアン・日本三大俳諧道場;京都の落柿舎(カクシヤ・1770)、滋賀の無名庵・100円」

鳴立庵の辺りの浜を「子陶綾(コタガキ)の磯」と言い、万葉の時代から歌に詠われた名勝の地。西行も足を留め「心なき身にも哀れは知られけり 鳴立沢の 秋の夕暮れ」と詠んだ、西行法師の和歌にちなんだもので、寛文年間に小田原の外郎(ウラロウ)という医師の子孫崇雪がこの場所に庵を結んだのが最初である。元禄時代に俳人大淀三千風(オホヨシミカヅ)入庵(1765)が入庵してから有名になり、多くの俳人が集るようになった。

#### 11・島崎藤村旧宅

藤村は、亡くなる2年前に、大磯に伝承される左義長を見て此の地に惚れ、昭和17年にこの家を買取り、静子夫人とともに移り住んだ。翌年「東方の門」の執筆半ば、「涼しい風だね」と言う言葉を残して永眠、71才。

12・六所神社「国府祭（くわふ）・5月5日国府の六所神社と神揃（ぐみ）山の上席争座問答・サギの舞」

祭神は大国主命・素戔鳴尊・稲田姫命、平安末期近くに国府が置かれ相模の総社となった。

13・主な著名人別荘名・旧安田邸；安田善次郎財閥（現安田不動産大磯寮）・旧岩崎邸；岩崎弥之助三菱財閥（現エザバス・サングラス・ホーム）・旧陸奥邸、大隅邸；大隅重信（現古川電工大磯荘）・伊藤邸；伊藤博文（現滄浪閣）・吉田邸；吉田茂（現プリンスホテル別館）・旧松本邸跡；松本順・旧加藤邸；三菱本社副支配人、伊藤内閣外相・旧樺山邸；樺山資紀鹿兒島藩藩士3男、陸軍少尉、西郷従道海軍大尉、日本海軍重鎮、海軍、内務、文部各大臣・旧寺内邸；寺内正毅元帥、日清、日露戦争軍功・旧西園寺邸、池田邸；旧西園寺邸＝第二次伊藤内閣、池田邸（西園寺邸買取）＝池田成彬、三井財閥大番頭・旧三井邸；三井総本家、大磯郷土資料館・等。

15・滄浪閣（くわうか）・バンケットホール・中華料理店・元初代総理大臣伊藤博文旧邸・伊藤博文公滄浪閣の碑）閉鎖

16・旧吉田邸

吉田茂元首相の養父で貿易商の吉田謙三氏が明治17年に別邸を建てたのが始まり。戦後、総理が外国貴賓を招くため新築されたが、現在は大磯プリンスホテル別館、非公開。

17・六所神社（祭神、櫛稲田姫命、素戔男命・例祭、7月20日・本殿神明造、文治2年、1186頼朝再建天文13年、1544北条氏政改築・幣拝殿唐破風権現造、文化2年、1805再建）

崇神天皇の代、柳田氏が出雲国より、養老2年（718）此の地に移転し、祖神の櫛稲田姫命を勧請という。相模国の一の宮から四の宮、平塚八幡宮の五社の分霊と主祭神（柳田大明神）6柱（6所）を祀る。

「IX」平成23年2月3日（木）旧東海道間の宿二宮（梅沢の立場）（集合；JR東海道線「二宮駅」改札口10時厳守）行程；二宮駅・ガラスのうさぎ→藤巻寺→双体道祖神→宝蔵院一里塚・押切坂→松屋本陣跡→茶の葉師堂→密蔵院→双体道祖神→祖切り地蔵尊→西光寺・子育て地蔵→川勾神社→吾妻山公園・吾妻神社・浅間神社→知足寺→徳富蘇峰記念館→二宮駅着。駅前昼食場所。西口駅前「小松や」TEL0463-72-4770

二宮宿

大磯と小田原の距離が比較的に長いことから、つくられた、小規模な宿。江戸方急な下り坂、駕籠や人々が馬と共に一息入れたと言う。坂道には「江戸より十八里」と記された一里塚が残る。

二宮地名由来；4世紀中頃には、大和朝廷を形成する豪族らによる日本国土統一が進み、此の地は師長（しなが）国に属する地名「霜見」と呼ばれ、大化改新（645）の国郡制により、相武（さむ）国と合併し、相模国となり、相模国余綾（よるい）郡霜見郷となり、それまで師長国の一の宮であった川勾神社が、相模国二の宮になり、一の宮の地位を寒川神社に譲ったと言う。川勾神社の存在する地域を「二宮」と称する様になったと言う。

1・伊達時彰徳碑（グントキトウ・東口駅前）・ガラスのうさぎ像

明治維新以降、二宮の発展と社会福祉の増進に尽くした伊達時を記念して建立。彼の功績は二宮駅設置、大磯女子敬業学舎の開校、平塚盲学校初代校長など多岐に渡る。

ガラスのうさぎ像（昭和56年永遠の平和を願う人々の浄財によって二度と戦争はあってはならないと建立）

ガラスのうさぎを抱いた乙女の像。第二次世界大戦中、二宮の空襲で父を失った体験を綴った高木敬子さんの小説「ガラスのうさぎ」にちなんで建てた。町民の平和への願いも込められている。

2・浜の観音さん（海岸に出る小道の小さい祠に石碑1基、石仏5体）

昔、伊豆方面から石材を積んで江戸の向かう船が二宮の沖で突風にあい、沈没、救助も空しく、6名死亡、2人は助かった。遺体は手厚く葬られ、人々の手厚いもてなしに感謝した船主と家族は、数ヶ月後石碑と石仏を運んできて、お礼と供養のためこの浜辺に建ててくれる様頼んだと言う。以来、水難・海難・災害除けの観音さんとして鎮座している。

3・妙案寺（日蓮宗京都大本山山圀寺末・浜のお祖師さん・了勝山・本堂に塩見道場額・寺宝鬼子母神十羅刹の女絵）

開山は日源上人。近衛家系墓三基と石碑・寺宝は、北条時代の遺品で、明治30年、北条家菩提寺、小田原中島の本久寺課へ返され、天正11年（1583）3月3日の日付とともに法印権大僧都日禎の名があり、昭和32年2月6日の産経新聞紹介されたと言う。

4・等覚院（別名藤巻寺・古義真言宗・梅沢山・本尊不動明王・両脇侍・境内西側葉師堂百体観音像秩父34番板東33番、西国33番札所巡り功德江戸時代作・昭和49年天然記念物指定白藤の古木推定樹齢400年・梵鐘寛文8年銘、昭和49年町指定文化財、元吾妻神社別当千手院にあったと伝う、町内現存する最古・木造葉師如来坐像、享禄5年1532後北条時代に※二宮庄と呼ばれていた事確認されるという）

昔東光寺と神願寺あったが、永禄4年（1561）兵火で焼失。天正3年（1575）僧で号を東覚房、名を実雄が、両寺を合わせて現在地に再興、東覚院としたのが始まりと言う。寛文（1661～73）の頃仁和寺の宮が関東に下向時、この藤の花を見て藤巻寺の別号が付けられたと言う。※印銘；「大日本国相州動木郡二宮庄之内海澤於宿宝殊葉師如

来再興壇郡宮戸臣朝昌林比丘敬白于時享祿五年壬辰六月十三日

- 5・双体道祖神
- 6・宝蔵院（曹洞宗大応寺末・延命山・本尊延命地藏菩薩）
- 7・一里塚（江戸から一八里・此处から大磯寄り梅沢の立場で間の宿として賑わった）・車坂碑（国道東前川信号）
- 8・松屋本陣跡（旧道押切坂）
- 9・茶屋の葉師堂（神仏分離令川勾神社より分かれ茶屋地区所有・寄木造り彫眼漆箔坐像推定江戸時代作像高 261.5 cm、面長 48.5 cm、昭和 49 年町指定文化財・例講毎月 1 日 11 日 20 日・大銀杏）
- 10・密蔵院（（古義真言宗→真言宗東寺派・川輪山広濟寺・本尊不動明王胎中仏像覺鰐作と言うが不明・欄間に龍、鳳凰彫刻、山西の宮大工周助作と言われ近郷の寺社建築、神輿造りの名人達人と言う）  
開山は覺鰐（かばん）密言坊と言う。中興は恵雅（永祿元年 1558 入寂）と言う。

- 11・双体道祖神
- 12・祖切り地藏尊
- 13・西光寺・子育地藏

- 14・川勾神社（加戸・相模国二の宮の格式・祭神地神、級津彦命、ツヰコ、級津姫命他 2 神・例大祭 10 月 10 日・国府祭功ノサ 5 月 5 日・1 月 15 日御筒粥ツツガ 1 祭・2 月節分等・田舟；町指定苗運搬用奈良時代頃迄用いたと推定）  
二の宮全町の氏神。創祀は第十代垂仁天皇（古事記日本書紀伝承天皇）時だと伝われ、皇室、幕府、武士団、崇敬が深く、徳川氏も代々信仰したと言う。建久 3 年（1192）源頼朝が政子夫人の安産祈願のため神馬を奉納、源氏将軍や北条氏、戦国時代の後北条、江戸時代小田原藩の崇敬を受けた。中村川上流、立ち寄りには、やや距離有り。古文書 5 通；小田原北条関係徳川家康を名護屋の陣に訪問したもの、戦国末期から江戸時代にかけてのもの多数現存、昭和 49 年町指定文化財社宝、雨乞いに使用されたと伝う「あみ石」（祖先が伊勢二見が浦から持ち帰ったと言う）・ずいじん門に祀られている木像 2 軀、木像 4 軀（共に兵火を逃れ 1000 余前の物）。

川勾の湯場；神社 2 の鳥居西側道下崖に、かつて、湯場の源泉の跡がある。以前崖の上に三階建ての湯宿があり多くの入浴者で賑わっていた（二宮駅開設の明治 35 年頃）大正 12 年関東大震災で宿壊れ営業に支障が生じ廃業。

- 15・八幡神社
- 16・吾妻山公園・吾妻神社（吾妻山公園内、小動物園、展望台、飲料水、管理事務所 WC）・浅間神社  
①吾妻神社（御神体は弟橘媛命を祀った木彫り千手観音東巻寺保管・夫、日本武尊武運を祈り海に投身した妻弟橘媛命の小袖が流れ着いた事から建立・例祭 1 月 15 日縁結びの神・吾妻は吾が妻の意）  
第 12 代景行天皇の時代に創建と伝う・祭神弟橘姫はこの付近に勢力持師長国造の娘だったので形見を埋めた所とも言う。  
②浅間神社（祭神木花咲耶姫富士山守護神・例祭現在は 4 月第 2 日曜日）  
由来は鎌倉時代に曾我兄弟が父の仇討ちの際、兄弟の妹花月尼が、本懐が達せられる事を願って毎朝富士山に向かってお祈りしたと言う。他説も有り。

- 17・知足寺（チカジ・浄土宗京都知恩院末・海山花月院・本尊、阿弥陀如来伝恵心作・寺宝乗鞍伝曾我兄弟遺物、百万遍念仏大数珠安政 4 年作・曾我兄弟と朝忠夫婦の 4 基の墓、元禄 7 年（1694）再造記録以前は五輪塔）  
鎌倉時代初期此の地付近支配した二宮朝忠の妻花月尼（曾我兄弟姉）を開基とする。建久 3 年（1192）5 月、曾我兄弟は父の仇工藤祐経を討って永年の本懐を遂げ、討死にした。兄弟には土地の豪族二宮朝忠（朝定）に嫁いだ姉がおり、姉は出家して花月尼と称し 1 宇を創し、懇ろに兄弟の菩提を弔った。
- 18・徳富蘇峰記念館（徳見蘇峰秘書、塩崎彦市氏が集めた資料・個人記念館にて月水金崇 3 日会館大人 500 円団体 20 名以上 450 円、中高生 200 円・TEL 0463-71-0266・団体見学要相談）

明治、大正、昭和の三代にわたって、言論・出版など幅広く活躍した徳富蘇峰翁の蔵書、原稿、揮毫（むらり）、書簡、遺品が多数収蔵・展示されている。本記念館は昭和 44 年 5 月「蘇峰の秘書を晩年 17 年間勉めた故塩崎彦市氏によって邸内に建設され、蘇峰宛手紙 4 万 4 千通（閲覧可）庭には樹齢 300 余年の梅の老木 100 本弱、春には多くの花を咲かせる。

徳富蘇峰（徳富蘆花 5 歳上兄）；文久 3 年（1863）熊本県生まれ、昭和 32 年（1957）95 歳没。明治・大正・昭和わたって言論・出版等幅広く活躍。

- 「X」3 月 3 日（木）小田原宿・小田原城歴史見聞（集合；JR 東海道線「小田原駅」改札口 10 時厳守）  
行程；小田原駅→外郭土塁→江戸見附・一里塚→北条稲荷→明治天皇宮の前行在所→明治天皇本町行在所→松原神社→北村透谷碑→御感の藤→報徳二宮神社→小田原城→小田原駅。

食事場所；「ふじ丸小田原駅前店」予約の場合、海鮮定食 1500 円／程。TEL；0465-23-4270。

駅前通り「金時」円／1 人 TEL；0465-23-0721。

小田原宿；江戸時代、大久保氏 1 万 3 千石の城下町を兼ねた宿場として、箱根の山越え、関所を控えた宿場として大いに栄えた。宿場の町並み、板橋旧道、石畳旧道、豊臣秀吉小田原城攻め時築いた石垣山一夜城跡など貴重な史蹟が

ある。

小田原宿 石高, 0 (資料, 天保14年, 1843)

家数1542・人口5404 (男2812・女2592)・旅籠95 (大17中31小47)・本陣4脇本陣4  
次の宿までの駄賃・人足賃銭 (文) 正徳 元年 (1711) 荷物438・軽尻182・人足218

天保15年 (1844) 荷物657・軽尻429・人足327

箱根宿; 元和4年 (1618) 小田原・三島の両宿から各50軒ずつを芦ノ湖湖畔に移住させて開設。翌年「出女」の取り締まりの厳しさで有名な関所が設置されたと言う。箱根は街道1の難所, 女転がし坂, 西海坂, 権現坂他その全域が旅人には過酷な急坂。雨が降ればすねまで埋まる泥道のため, 竹道にかえられた。しかし, 竹は毎年枯れてしまうため, 石畳が敷かれた。

1・北条氏政・氏照の墓 (繁華街煉瓦通り一隅・2基五輪塔・後北条氏第4代小田原城主と弟八王子城主)

天正18年 (1590) 7月11日落城後, 秀吉に自決を命ぜられた。本来なら当主氏直が責を負うところ氏直は家康娘婿だったので秀吉遠慮しての処置だろう。氏政53歳, 氏照49歳。首は京に送られたが遺骸は此の地に氏寺の伝心庵 (臨済宗, 小田原市中町1-14) に葬られている。

2・なかしんば (古くは馬場利用地?)

稲葉氏時代 (1632~85) には此処に12軒程の藩士屋敷があった。幕末には大久保藩士の屋敷として約16軒に増えている。

3・外郭土塁・太平洋戦争爆弾着弾跡 (昭和20年8月13日小型機の空襲で30名に犠牲者新玉小, 土塁着弾)

後北条氏時代の小田原城の外郭遺構。低地にあるものはこの土塁だけで, 貴重なもの。後北条時代小田原城外郭土塁は城下町を包囲し周囲5里 (約20km) にも及ぶ雄大なものであったと伝わる。

4・善照寺 (真宗大谷派)

5・蓮上院 (真言宗・花木山満願寺・本尊地藏菩薩・寺宝不動明王円珍作, 十一面観世音菩薩松原明神本地仏)

建長6年 (1254) 実證が当地城主の祈願所として開創。代々北条家の帰依を受けた。

6・江戸口見附; 一里塚 (公民館, 松老木, 小田原宿の東玄関口, 江戸口見附跡, 約8.4km)

7・山王神社 (星月夜の社・祭神大山祇命, 小彦名命, 大山咋命・月夜野の井旧地移転・旧海辺南袖ヶ藪, 崩壊)

明応4年 (1495) 北条早雲は城主大森藤頼破り小田原城手中相模の国平定, 社は北条家郭内で山王曲輪と称し袖の池南袖ヶ藪にあったが崩壊, 慶長18年 (1613) 現地に移転。宗福寺 (曹洞宗)。

8・北条稻荷と蛙石 (カズ・蛙石明神稻荷末社・元小田原城内庭上にあり小田原に異変あると必ず鳴くと伝う)

北条氏泰に死去を老狐の祟りと考えた, その子氏政が社を建ててその老狐を祀り, 守護神として崇めました, 神社の境内にある蛙に似た蛙石 (深さ一丈以上) は後北条氏小田原落城前夜, 夜鳴きしたと伝えられる。

9・古新宿町八代龍王神社

10・明治天皇宮前行在所跡 (旧道本町信号手前, 旧本陣, 現古清水旅館。他に清水本陣, 大久保本陣があった)

明治天皇が都合5回, 宿泊された。

11・松原神社 (市民会館前通り提灯型の街灯有り・小田原宿鎮守・祭神, 大和武尊, 素盞鳴命, 宇迦之魂命・例祭 4月14~16日・神紋左三巴・明治6年1月, 旧足柄県県社及び郷社と定められた・関東大震災焼失昭和6年11月復興)

近衛天皇久安年中 (1145~51) に勧請創建と伝う。後北条氏の深い庇護により, 隆昌した。

12・小田原宿なりわい交流館昭和7年網間屋再整備平成13年9月お休み処として開館無料

13・徳常院 (曹洞宗・竜珠山・本尊虚空菩薩立像・寺宝青銅製正徳3年延命地藏菩薩大田正義作露座大仏)

元和元年 (1615) 至明良順の開創。嘉永元年 (1624) 19世素岳大童が再興。昭和39年本堂再建今日に至る。境内に, 片足を下げる寺宝, 延命地藏尊と呼ばれる, 総身5m, 8百貫もの青銅製露座大仏。

14・明治天皇本町行在所跡; 旧本陣片岡永左右衛門宅。明治11年11月7日に明治天皇が宿泊された。

15・ういろ本舗 (箱根口バス停手前・TEL 0465-24-0560)

現在八棟造の建物が復原新築。500年の伝統を誇る全国最古の薬屋。起源は応仁の乱「応仁元~文明9年 (1467~77) 足利将軍, 管領畠山・斯波 (カ・室町守護大名) 両家相続問題で東軍細川勝元, 諸大名対西軍山名宗全 (8ヶ国守護職), 諸大名とが京都を中心に対抗し戦乱となり幕府の権威失墜した」後, 元から亡命した陳延祐 (チエン功) で元朝に仕えていた頃は礼部員外郎 (ウイウ) だったことから外郎を名乗り京で薬を商った。髪臭を防ぐ「透頂香 (トウテンコ)・薬」で公卿 (キョウ) 間に好評を得た。小田原に下ったのは5代定治の時, 性も宇野と改める。北条氏綱は500m四方もの広大な地所を与え薬業を営ませるほか, 武士としても用した。

16・北村透谷の碑・藤棚観光案内所

近代文学の先駆者, 北村透谷の碑。碑文ならびに書は島崎藤村が, 断崖作りのデザインは日本美術院同人牧野雄氏が手掛けた。

17・御感 (ギョウ) の藤

明治の末, 当時皇太子であった大正天皇が藤棚の花の見事さを激賞されたことから, 「御感の藤」と呼ばれるように



なった。藤は小田原名物。

- 18・報徳二宮神社（祭神、二宮尊徳翁・例祭4月15日・社宝二宮尊徳翁遺品・二宮翁夜話著福住正兄碑・神紋丸に横木瓜・芸能筆祭1月1日・神徳景仰祭10月20日）

明治25年、相模・伊豆・駿河など近隣6ヶ国の尊徳社員の手によって創建。小田原が生んだ農聖、尊徳二宮金次郎（通称金次郎、名は尊徳、幼名・江戸末期農政家・天明7、1787～安政5、1858）を祀るため建てられた。

尊徳14歳、父利右衛門没、続いて母好（ヨ）も没、一家離散やむなきに至る。本家万兵衛宅に引き取られ、勤儉努力の精神たたき込まれる。20歳で独立、10年後早くも4haの豪農になる。手腕認められ、小田原藩の家老服部家の財政整理を委託され、見事に達成した。此が藩主大久保忠真（タカマ）の耳に入り、分家の下野（栃木県）桜町4000石、宇津家の再建以来された。懸命の努力の末、復興にこぎ着けた。その後烏山藩・谷田部藩・相馬藩などの再建を委託復興を成功させた。声望遂に老中水野忠邦をも動かし、直参として召され、天下の尊徳たらんとしたと伝う。

- 19・小田原城跡（天守閣、見聞館、共通600円・天守閣400円・見聞館300円・団体30人以上500円）

室町時代（応永24年、1417）に大森氏の築いた山城が前身で、後戦国大名小田原北条氏の居城となった。関東支配の中心拠点として次第に整備拡張され、豊臣氏の来襲に備えた城下を囲む大外郭の出現に至って城の規模は最大に達し、前例を見ない居城に発展した。天正15年（1590）大修理。

小田原北条氏滅亡後、徳川氏譜代大名大久保氏が城主・江戸時代、三の丸以内規模が縮小されたが、稲葉氏の時代に太規模工事によって近世城郭に生まれ変わる。次いで大久保氏再度城主となり、東海道、箱根の関東地方防衛拠点として幕末。明治3年廃城方針が出、城内主要建物は解体され、国指定城址公園として現在も様々な整備が続けられている。

ウエルカムゾーン；戦国武将が出迎える。小田原の歴史を簡単に紹介。

情報ゾーン；小田原の観光名所をゲーム感覚で検索でき、選んだ場所の風景写真に自分の顔写真合成して、絵はがきシールにプリントアウト出来る（小田原検索100円）や、天守閣4階からの眺望をリアルタイムで上映す（小田原情報モニタ）等出口付近には小田原北条氏が公判に用いた「虎朱印」レプリカ記念スタンプ。

北条五代ゾーン；北条早雲の国盗りを、影絵の紙芝居風の映像で紹介する「カラクリ紙芝居」や、北条氏泰の武名を高めた戦国時代の三大奇襲線の1つと呼ばれる「河越夜襲」を再現する「書き割り人形芝居」豊臣秀吉の小田原攻めに対抗するための軍議の様子を本物そっくりの人形が演じる「ミニシアター」など。

江戸時代ゾーン；小田原城の歴史を眼と耳で楽しむ事が出来る。体験型情報館。館内の4ゾーンで構成され、小田原城の始まりから、現在に至るまでの歴史を模型映像で分かり易く説明する。

天守閣；江戸時代模型図基に外観を江戸末期、内部歴史資料展示施設として昭和35年復原。3層4層の天守閣に多門櫓（ヤウ）・続き櫓を付した複合式天守閣。花鳥図（岡本秋暉筆市指定文化財、二の丸に藩主御殿）。

天守閣模型；宝永年間の天守再建の際、検討用に作られた1/20の模型。

常盤木門（トキギモ）；城本丸正面にあたり最も大きく堅固に造られていた。周辺に多聞櫓と渡り櫓を配した枡形門の構造をもち、側に有った巨松になぞられて此の名が付けられたと言う。昭和46年復原。

銅門（カガネ）・小田原城歴史見聞館；二の丸の表門にあたり、住吉橋を渡り、馬屋曲輪から二の丸へ通ずる大手筋に設けられた、櫓門・内仕切門及び土堀からなる枡形門。名由来銅板装飾。平成9年復原。

幸田門跡；江戸時代は小田原城三の門の1つ。現在は道路や建物下に埋もれているが当時は小田原城の大手口と考えられる。

- 20・伝肇寺（デンゾウジ・浄土宗・本尊、阿弥陀如来・寺宝、古文書7通、天正年間北条虎印捺印）

正安2年（1300）の開基で開山は惣蓮社嘆誉良肇。北原白秋が寺の竹林に家（みみづくの家）を建て、創作活動に励んだ。白秋の活動を称え、現在、寺の境内には「赤い鳥」の祈念碑が建立されている。

- 21・大久寺（オウジ・日蓮宗・宝聚山随心院・本尊、三宝4菩薩）；天正18年（1593）建立、小田原大久氏の氏寺。寛永11年（1634）現在地に移転。寺内の墓所に開基忠世をはじめ大久保氏の墓がある。

次年度繰り越しますか？平成22年度「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪企画（案）

「I」4月7日（木）旧東海道箱根湯坂路（集合；JR東海道線「小田原駅」改札口10時厳守）

行程A案；小田原バス移動→六地藏下車→湯坂道入口→鷹巣山（834m）→浅間山（804m）→湯坂城趾→箱根湯本→玉簾の滝→湯本（約8km）。

食事場所；湯元駅前通り「」円程。

- 1・富士火山

富士山は有史以来度々噴火を起こしており、貞観6年（864）には北側の寄生火山の1つ（現長尾山）から大量の溶岩が流出した。青木ヶ原を作っている溶岩はその一部である。又、宝永4年（1707）には南西側の



中腹に噴火を起こし、宝永山と宝永火口を作った。宝永4年の大噴火では降灰のため江戸市中は暗闇になったと伝う。延暦年間の噴火による火山灰により足柄路を埋め、箱根湯坂路が開かれる原因となった。

## 2・箱根火山群・形成まで4回に分けられる歴史

- ① 古期外輪山形成期；約2700mの富士型の火山と20万年まえの噴火後に山頂部が陥没して南北約12km・東西約8kmのカルデラができ、箱根峠―長尾峠―乙女峠―明神ヶ岳―白銀山―大観山を連ねる外輪山が古期カルデラ。
- ② 新規外輪山形成期；早川と須雲川の間にある鷹巣山・浅間山などの平坦な山体を作る、湯坂路が通る地帯。
- ③ 約5万年前の火砕流の噴出期。
- ④ 中央火口丘陵の形成期、4万5千年～3千年前  
駒ヶ岳・上、下両二子山・など6つの溶岩円頂丘陵と神山成層火山。芦ノ湖は3千年前の大湧谷の水蒸気爆発による山崩れの堆積物が早川に堰き止めて作られた。

## 3・元箱根石仏群（バス停六地藏・石塔群保存整備記念館、かつて此の地は地獄信仰の地・国史蹟）

精進池・八百歳生きたと言う伝説の女性八百比丘尼の墓（宝篋印塔残欠）・磨崖仏（応長元年、1311・俗称応長地藏・火焚地藏・国重文）。宝篋印塔（俗称多田満仲の墓、清和源氏の祖源經基の子で10世紀に活躍の人物国重文、大和国の大蔵安氏の作、正安2年、1300極楽寺忍性を導師と仰えて立塔供養したものと推す）。磨崖仏（俗称二十五菩薩、国重文）。地藏菩薩立像24体・阿彌陀如来立像1体・供養菩薩1体からあなり、銘文から永仁元年～3年（1293～95頃）の造像とみられる。3基の五輪塔（俗称曾我兄弟・虎御前の墓、国重文、左2つが兄弟、右が虎御前と言う、鎌倉中期作）、虎御前塔に永仁3年、1295とある。磨崖仏（俗称六地藏、国重文・復原された覆屋、1300年作）。これだけの石造物が短期間（1293～1300頃）に集中的作られたのは地獄信仰の高まりに関係すると思われる。

## 4・東光庵熊野権現旧跡（芦の湯）

江戸時代半ばに建てられ、江戸の文人・墨客が集まったサロンの跡。その面影を残す歌碑などが残る。

## 5・箱根越え今昔

- ① 最も古くは碓氷道（ウヰドウ）・古代；三島―乙女峠―仙石原―碓氷峠（宮城野）―明神ヶ岳―足柄平野―国府津。  
常に見晴らしの良い地点を通るが、1000mほどの外輪山を2度も超さなければならぬ難路だ。
- ② 奈良時代以後の官道整備された足柄道・古世；三島―足柄峠―関本―国府津。平安初期の延暦21年（802）、富士山大爆発により足柄道ふさがり、その後復旧するも箱根山中官道に。
- ③ 湯坂道・中世；三島―箱根峠―芦の湖畔―箱根権現・精進池―芦の湯―鷹巣山―浅間山―湯坂山―湯本―国府津。
- ④ 箱根旧街道・近世；三島―箱根峠―箱根宿―畑宿―須雲（ガモ）川添い―湯本―国府津。現石畳1863改修時。

## 6・箱根旧街道（小田原口～芦ノ湖湖畔まで約4里、此处から三島までの4里を箱根8里と言う）

## 7・湯坂路（道）

鎌倉幕府の箱根権現参詣の路として栄える。「吾妻鏡」治承4年（1180）8月石橋山合戦の行（タ）に「北条殿者 経箱根湯坂」「十六夜日記」建治3年（1277）鎌倉へ向かう阿仏尼（アブニ）「人のあしもととどまりかたし ゆさかとそいふなる」等に見える湯坂路。江戸期には須雲川沿いに下げ、畑宿経由で湯本に抜ける旧東海道が開かれると、交通は途絶えてしまう。

箱根路改修（舗装等）の歴史抜粋；延宝8年（1680）敷石、文久3年（1863・石畳が最初に敷かれたのは1680年、延宝8）家茂上洛のとき全路大改修、元和4年（1618）松平正綱東海道改修の際松並木植樹等。

湯治費用（箱根は江戸時代、草津と並ぶ湯治場）；文化8年（1811）箱根1泊2食200文（1文約30円）で6000円・松明16文、480円・手伝300文／1日、9000円）1週間の湯巡り費用約1900文（5万7千円・当時の大工5日間の手間賃と同額）

行程B案；小田原バス移動→元箱根→箱根関所跡→杉並木→箱根神社周辺・バス移動→六地藏下車→湯坂道入口→飛龍の滝→畑宿寄木会館→畑宿本陣跡→バス移動→湯本駅（約8km）。

食事場所；湯本駅前通り「」円程。

### 参考資料

- 1・箱根関所（開創1601～5年、慶長6～10・1610～14、慶長15～19年説有・6～18時）・資料館  
徳川幕府が諸大名の謀叛防止のために元和5年（1619）に設け以来250余年にわたり厳しい掟で旅人を苦しめていた。現御番所は昭和40年に復原したもの。管理は小田原藩、役人は番頭1人、横目付3人、兵士3人、同助1人、定番3人、足軽小頭1人、足軽15人・非常時小田原から応援駆けつける。根府川・仙石原・矢倉沢・矢賀・川村にも裏関所が設けられていた。通常手形他箱根関所宛手形（武士なら各藩藩庁・庶民は家主、名主発行有効期間2ヶ月発行月から翌月迄）。特に出女、入鉄砲に厳しかった。
- 2・杉並木（元箱根・箱根・約300m・湯本～畑宿松並木、美観、防雪、日陰効果）  
芦ノ湖の旧東海道にある杉並木は元和4年（1618）箱根宿を設けた時に植えられたと伝う。現在414本。

### 3・恩陽公園

古くは堂ヶ島と呼ばれていた。此处から湖に映す霊峰富士の眺め素晴らしい。明治天皇はベルツの進言でここに離宮を建てさせ、その後公園となった所。

### 4・箱根神社(祭神、瓊瓊杵命、木花咲耶姫命、彦火々出見尊の三神・祭礼日、)

奈良時代の終わり天平宝字元年(757)、万巻(マガン)上人により創建され、関東の総鎮守として代々武將に崇拜された。万巻上人は箱根山中を訪れ、此处に丈六薬師如来を造り根本中堂に祀ったと言う。平安中期以降東海道路交通量が北の足柄峠越えよりも、箱根越えの方が頻繁、盛大になった。特に頼朝の挙兵に当たり、別当行実が援助したことから鎌倉幕府の絶大な保護を受け、伊豆山・三島と並び將軍の二所詣(將軍が二所の権現を詣でる鎌倉時代参詣)の神社となった。天正18年(1590)豊臣秀義来攻、焼討・江戸時代維新時廃仏毀釈(キヤク)破戒損害等で幾多の寺宝、經典を失ったが、境内宝物館にはかなりの文化財を保管している。

万巻上人坐像(国重文、平安期作一木造、等身大、関東最古・箱根権現縁起絵巻)国重文、鎌倉末期作拝見困難)・箱根山縁起並序、ナベヅヨ、建久2年、1191、大古聖占、シヤン、仙人はじめ神話内容が記される、拝見可)・伝曾我十郎所持の微塵丸(ミジン)、伝源義経奉納の薄緑丸などの太刀多数・文久5年(1268)作の鉄製湯釜、弘安6年(1283)作の湯堂釜(元県重文)、作らせたのは隆実(リュウジツ)別当後者の作者は磯部康弘。

### 5・興福院(曹洞宗・箱根権現別当金剛王院東福寺属・普賢菩薩像)

天文年間(1532~54)、第41世別当融山僧正の開創。木造菩薩頭(県重文)・普賢菩薩像(県重文・像高49cm・権現末社の能善明神の本地仏・庭部に永仁5年、12+97造像銘)・弘法大師坐像・愛染明王坐像・阿弥陀如来坐像・不動三尊像・釈迦三尊像・宝篋印塔(前庭に暦応2年、1339銘・湖畔には賽の河原があり、多くの石塔群、江戸時代、鎌倉時代、正和3年、1314)銘の層塔もある。

### 6・飛龍の滝(上段、下段の2段に分かれ落ちる勇壮な滝、下段の滝は間近の岩場から見える)

### 7・甘酒茶屋・旧街道資料館

江戸時代には4軒の茶屋が旅人に甘酒を売っていたが、旧街道の利用が少なくなる現在では1軒だけ営業している。箱根町により古い農家を移築した旧街道資料館として休憩所が建てられ、関内に数々の道中資料を展示している。甘酒茶屋物語・赤尾浪士の1人、神崎与五郎がこの茶屋でささいな事から馬子の丑五郎に詫証文を書いたと伝う。

### 8・畑宿寄木会館(入場無料・9~17時・休館12/28~1/3)

江戸時代後期石川仁兵衛により創作されたと伝う箱名寄木細工。当館ではこの寄木細工の技法を紹介する実演コーナーをはじめ展示即売コーナーもある。

### 9・旧街道資料館(無料・9~16. 半時・年中無休)

忠臣蔵四十七士、神崎与五郎が馬子の丑五郎に詫状文を書いた話など旧街道に因んだエピソード・風俗・習慣をパネル・模型等で紹介している。

### 10・畑宿本陣跡

### 11・鎖雲寺(臨済宗・無住・正眼寺管理)

本堂右手墓地に、小さな五輪塔2基、此が歌舞伎の「箱根霊験記(ザリ)の仇討」で有名な勝五郎・初花の墓である。勝五郎と初花夫婦は父の仇を追って諸国を遍歴したが、勝五郎の足が不自由となったため、箱根で養生しながら、箱根権現に願をかけ、大願成就の時を待った。ようやく仇に巡り会った時、夫婦が返り討ちになりそうになったが、箱根権現の加護により勝五郎の足が治り、仇討つ事が出来たと言う伝え。

須雲川をはさんだ対岸の山の中腹部は、初花が夫の病の全快と仇討ちのかなうことを願い、毎夜打たれたと伝う初花の滝がある。

### 12・正眼寺(シャクン・臨済宗・放光山・曾我堂、木造地藏菩薩立像2体県重文胎内地蔵阿弥陀観音混合印仏発見康元元年、1256年号銘、鎌倉中期作・この2体は曾我十郎、五郎の像とも言われ、二人の位牌もある)

勝源寺燈籠(応永2年、1395)銘・丈六地藏(紹太寺から移設)・本堂に金箔極彩色「唐子唐美人図」と「四季草花図」襖絵がのこる(伝狩野尚信筆)。

### 13・阿弥陀寺(浄土宗・黒本尊、芝増上寺寄進・寺宝、阿弥陀如来三尊・藁葺屋根元久野村庄屋の家移す)

17世紀初め弾誓上人が小田原北条主大久保忠隣(タカナガ)の援助を受けて再興。寺宝阿弥陀三尊は江戸本所回向院(コウ)から元禄時代に(1688~1704)寄進されたと伝う。黒本尊は和宮が塔ノ沢環翠楼で死去された時、阿弥陀寺が手厚く法要を行った事に対し、徳川家菩提寺増上寺から寄進された。裏山を登った崖の洞窟、入口に「至徳丁卯(1387)年号刻の1m程の宝塔(南朝時代作品)が。洞窟は2部屋からなり、中には弾誓人造立の圭頭碑(ケイツ)49基と五輪塔8基が納められている。

### 14・深良水門(トホで・芦ノ湖―湖尻峠―三国山―山伏峠の西麓、駿河国駿東郡深良村(現裾野市)水不足を救った・全長1343m・総工費7335円・延人員83万余人・工期4年有余苦闘の未完成、寛文10年、1670)

深良水門(ワカ・箱根用水)湖尻から西に湖に沿って約15分で逆(サカ)川水門。さらに南へ20分で深良水門。この水門は明治以来静岡県と神奈川県が激しい水争いを行い、神奈川県が敗訴となった箱根用水である。

発案；名主大庭源之丞（ゲンジョウ）・問題点；膨大な資金、箱根権現の理解、幕府許可必要・資金提供者；江戸浅草の豪商友野与右衛門，同調者，日本橋の商人村松浄真，相模中部旭村（現平塚市）の宮崎市兵衛。幕府の許可取付け3年。但し幕府陰に陽に妨害（庶民の手だけで大工事の恐れ、関所抜け道利用？）与右衛門等いわれない江戸連行，入牢・完成後再度，与右衛門召喚され，密かに死罪に処せられ，源之丞も与右衛門一派に殺される結末。

芦ノ湖の水は深良側管理，神奈川県では全く利用出来ない上，大雨・氾濫の恐れ有る時は取水口締めるため，酒匂川から溢れて早川筋に洪水だけをもたらした・水争い神奈川県敗訴に終わる。

#### 15・金時神社（仙石原・坂田金時）

昔，猪鼻山（金時山1213m）のふもとにある神社で，今は，ハイキングコース。

#### 16・仙石原

大昔，湖底の底にあった。現在もその名残をとどめ，花菖蒲，水苔など珍しい湿原植物が多く国の天然記念物に指定。

#### 17・芦ノ湖

約40万年前の箱根火山のカルデラの中に出来た細長い湖。紅ます，虹ます，ブラックバス，わかさぎ等棲息。

#### 18・早雲寺（湯本・京都大徳寺派）

大永元年（1521）北条氏綱が父早雲の遺命により建てた名利。北条5代の墓，北条早雲像（国重文）隣接の早雲寺林には，超指定天然記念物のヒメハルゼミが棲息。

#### 19・相州小田原城

室町時代（応永24年。1417）に大森氏の築いた山城が前身で，後戦国大名小田原北条氏の居城となった。関東支配の中心拠点として次第に整備拡張され，豊臣氏の来襲に備えた城下を囲む大外郭の出現に至って城の規模は最大に達し，前例を見ない居城に発展した。天正15年（1590）大修理。

小田原北条氏滅亡後，徳川氏譜代大名大久保氏が城主・江戸時代，三の丸以内規模が縮小されたが，稲葉氏の時代に太規模工事によって近世城郭に生まれ変わる。次いで大久保氏再度城主となり，東海道，箱根の関東地方防衛拠点として幕末。明治3年廃城方針が出，城内主要建物は解体され，国指定城址公園として現在も様々な整備が続けられている。

#### 20・天守閣

江戸時代模型図基に，外観江戸末期，内部歴史資料展示施設として令和3年復原。3層4層の天守閣に多門櫓（やぐら）・続き櫓を付した複合式天守閣。

#### 21・天守閣模型

宝永年間の天守再建の際，検討用に作られた1/20の模型。

#### 21・常盤木門（トギモ）；城本丸正面にあたり最も大きく堅固に造られていた。周辺に多聞櫓と渡り櫓を配した桁形門の構造をもち，側に有った巨松になぞられて此の名が付けられたと言う。昭和46年復原。

#### 22・銅門（アガネ）；二の丸の表門にあたる。櫓門，内仕切門及び土塀からなる桁形門。名由来銅板装飾。平成9年復原。

「Ⅱ」5月12日（木）二宮尊徳記念館・尊徳の里散策（集合場所小田急線「栢山・辻駅」改札口10時厳守）

行程；栢山駅→坂口堤・松並木→村田道仙の家→二宮総本家屋敷跡→善栄寺→二宮尊徳の生家・尊徳記念館→・捨苗栽培地跡→捨苗栽培地跡→油菜栽培地跡→昼食後自由解散所→栢山駅。

事場所；「藪そば長八」手打ちそば定食1050円／程。TEL；0465-38-0438。

#### 1・坂口堤・松並木

病気の父に代わって，堤防工事に出たり，夜なべで「わらじ」を作り，人々に推譲（スジヨウ・推薦し譲る）し子守で稼いだ，二百文で松苗を買い堤防の補強に植えたと言う。

#### 2・栢山神社

#### 3・村田道仙の家（現村田医院）

村医，村田道仙は金次郎の父が病気のため家が貧困していたとき物心両面から援助したその子孫が代々医業を継承している。

#### 4・二宮総本家屋敷跡

初代二宮伊右衛門は永正年間（1504～21・北条早雲の頃），此の地に土着し10代まで代々伊右衛門を名乗り，多数の分家になって繁栄し，万治元年（1658）には田地6町4反17歩（6.4ヘクタール）を持つ程であったが，次第に家運傾きはじめ，寛政12年（1800）に当主儀兵衛亡くなると総本家は絶えてしまいました。金次郎が10歳の頃。19歳のとき総本家の再建を志した尊徳はまず総本家の敷地内で竹を育て，これを売ってその再興資金とした。後年，この資金をもとに田地等を次々と買入れていき，嘉永年間（1848～1863）にはその復興を完成した。この間約50年と言われる。

#### 5・善栄寺（曹洞宗・本尊釈迦如来・如意山・弁天堂・寺宝古器物，天目茶碗，香炉，燭台，花瓶何れの巴御前奇進と言う，豊臣秀吉天正18年木制札，禁制状，二宮尊徳遺品書状9通・二宮家一族の墓，尊徳墓前祭9月20日）

健保3年（1215）木曾義仲の愛妾（アシヨウ・愛する妾）巴御前が木曾義仲と和田義盛一族の菩提のため善法真栄

上人を勧請して創建と伝う。延元3年（1336）鎌倉円覚寺第10世東明恵日禪師が足柄地に隠棲中、臨濟宗に改宗一時衰退し、北条氏泰夫人が天文23年（1554）に再興して更に曹洞宗に改めた。尊徳の遺骨は今市の星頭（せつ）山如来寺に葬られ、遺齒、遺髪は持ち帰って当寺に埋葬された。同寺には金次郎と三代（尊徳・子の尊行、弥太郎・孫の尊親、金之丞）の書状が多数残されている。

北条氏康夫人の墓碑宝篋印塔（廃寺、城山の元願修寺）市指定重要文化財）塔身周囲に「瑞溪院殿光室宗照大師元龜2年11月21日卒小田原北条家三代氏康公之講中」刻、瑞溪院は氏康夫人（天文4年1535氏康に嫁ぎ元龜2年1571没）、父は駿河国領主今川氏親、母京都公卿中御門大納言信胤の息女、今川義元は瑞溪院実弟、「今川記」によれば、氏政、氏照ら7人の男子と5人の女子を生み家庭教育、35年間内助の功績大きく氏康を助けた・二宮金次郎「少年勤勉の像」16歳頃（享和3年、1803）銅像制作者鑄金家4代目慶寺丹長氏。二宮尊徳道歌「おともなく香もなくつねに天地は書かざる経をくりかえしつつ」（訓戒歌）曾孫（ヒマ）二宮四郎氏揮毫（お・書画）。

#### 6・二宮尊徳の生家（二宮兵衛宅・神奈川県指定重要文化財）

寛保2年（1741）頃、祖父、銀衛門が分家し、建てられた。江戸時代中期此の地方の典型的な中流農家の建物です。藩主の命を受け、わが家を処分し桜町に移った。その後、二度程度移築されたが、昭和35年当時の姿で復原された。

#### 7・尊徳記念館（観覧料一般200円小中学生100円団体20名以上一般150円・施設利用TEL0465-36-2381）

此の記念館は、郷土（小田原）の偉人、二宮尊徳の生涯や、其の教えを学習すると共に、生涯学習活動の場として、広く青少年から高齢者までが利用出来る社会教育施設です。「おだわら21世紀プラン」の4大イベントの1つである「二宮尊徳誕生200年祭」の事業として、旧尊徳記念館（昭和30年建設）及び尊徳遺品陳列館（昭和40年建設）に代えて、二宮尊徳についての学習の場として、また、広く社会教育の場として、昭和63年5月建設竣工したものです。敷地内に二宮尊徳生家保存。

1階 尊徳の生涯・事業についての資料や遺品を展示する常設展示室、視聴覚室、図書室など。

2階 宿泊施設（和室6室、全50人収容、食堂、調理室・浴室など。

3階 講堂（200人収容）、研修室3室（全70人収容）体験実習室（60人収容）。

#### 8・捨苗栽培地跡

享和3年（1803）6月酒匂川大洪水によって使えなくなった用水堀に、洪水の翌年、捨てられている植残りの苗（捨苗）を植え付ける為、金次郎（16歳の初夏）が耕したもので、秋にはここから、1俵の粃（ヒ）を収穫し翌年は5俵の米を得る事が出来た。「小を積んで大を為す（積小為大）」と言う、大自然の法則を体験。

#### 9・油菜栽培地跡（当時尊徳所有地）

夜学の為に行灯（アンドン）の油を無駄に使うな、と祖父の万兵衛に叱られた、享和3年秋分けてもらった、一握り（五勺・約90cc）の油菜の種を借り栽培した所。翌年には7升（12.6L）程の収穫を得たので、農村の油屋嘉右衛門の店にいった灯油にかえてもらい、夜間の勉強に備えたと言う。此処でも「積小為大」の自然の法則を体験。

#### 10・日本の米づくり100選指定水田（主催全国農協中央会、日本農業新聞、後援・農林水産省）

この水田は二宮尊徳捨苗栽培のいわれにちなみ、翁（おきな）の優れた業績を偲ぶとともに農業に対する理解と土や緑などの自然環境に接する機会づくりを目的に、地元小学生による田植えから稲刈りまでの体験学習の場として利用されており、平成3年3月「日本の米づくり100選」に選ばれた。

#### 10・報徳堀「曾比村の仕法（お・しかた）実施中」

天保11年（1840）曾比村地区水田の地下の冷水を取り除く為掘られた排水溝です。湿田が良田に改良され、米の収穫が倍増した。村人達は、感謝をこめて、「報徳堀」と呼んだ。竹松・小芝原・鬼柳などの報徳堀が知られる。

#### 11・金次郎の生涯

二宮金次郎は1787年（天明3）桜井村（現小田原市栢山）の農家の長男として生まれ、少年時代に父母を亡くし、弟とも離散、祖父、万兵衛宅で暮らし、働きながら勉強に勤め多くの自然の法則や、人生観を学んだ。31歳の時、藩主大久保忠直公（お・サネ功）より村民の模範者として表彰された。その後桜町領、利根川分水路、日光神領の復興に尽力し69歳の生涯を閉じた（安政3年10月20日没、1856、院号は誠明院功誉報徳中正居士）。尊徳の遺訓は弟子達に依って受け継がれ、人々の心に生き継がれている。金次郎は生涯万兵衛に、実父母以上の感謝を捧げたと言う。

#### 参考資料

神奈川県の歴史散歩（上・下）

品川区立品川史跡館資料

しながわ百景のみち

太田の史跡めぐり

なぎさ2000年2月

高等学校教科・研究会社会科歴史分科会

品川区役所

品川区企画部広報聴課

大田区教育委員会

京急電鉄（株）広報部発行

東海道品川宿まち歩きマップ

品川宿（品川本陣～品川神社～東海寺～梅屋敷）

横浜 特集 東海道三宿 in 横浜 04 秋号 横浜市広報課「横浜」

宿場マップ歩く・知る・発見する東海道；藤沢宿／茅ヶ崎宿／平塚宿／

大磯／二宮宿／小田原宿・箱根路／箱根宿／川崎宿

品川宿／藤沢宿／茅ヶ崎宿／平塚宿／大磯宿

神奈川ぶらりウォーキング横浜史蹟遍

東海道と藤沢宿

東海道五十三次藤沢宿史蹟ガイドブック

藤沢市文化財ハイキング・コース

平塚宿「間の宿」南湖から平塚宿上方見附まで

平塚史跡散歩 1・2・3・4 東海道平塚宿

大磯の別荘と史跡

尊徳記念館資料

ふるさと発見！！探訪にのみや

二宮の文化財

ファミリ・ハイキング 二宮史跡めぐり

中地区文化財めぐりふるさとの歴史・文化財発見～

にのみやまウォーキング・ジョギングガイド

湘南にのみや観光MAP

二宮金次郎史跡めぐり二宮尊徳の里

小田原の文化財

鎌倉文学碑めぐり（鎌倉文学館資料シリーズⅠ）

鎌倉文学散歩（鎌倉文学館資料シリーズⅡ）大船北鎌倉方面鎌倉文学館

全国寺院名鑑

全国神社名鑑

歴史人物辞典

各種百科事典等

藤沢市、茅ヶ崎市、大磯、二宮、小田原、各市区町村、発行歴史書

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

神奈川東海道杵ヶ付の会平成17年5月

神奈川東海道ルネッサンス推進協議会

神奈川東海道ウォークガイドの会

神奈川図書館

藤沢教育委員会生涯学習課

可満くらやに資料館

藤沢市教育委員会

神奈川東海道杵ヶ付の会平成16年11月

平塚教育委員会社会教育課

大磯ガイドボランティア協会

小田原市教育委員会

編集・発行二宮教育委員会

二宮教育委員会

発行二宮町編集二宮広報編集委員会

中地区市町文化財保護連絡協議会

企画・発行二宮教育委員会

編集・発行；二宮町役場経済環境部経済課

東栢山道上自治会・小田原市尊徳記念館

小田原市教育委員会

鎌倉文学館

以上